

その他の装置、設備を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 （小） コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
2022	1	16 ～ 18	廃棄物処理施設内の白煙防止用設備のダクト内面を塗装する作業を行っていた際に、垂直ダクト部分で下方にある送風機内まで頭から墜落した。ダクト径は60cm、墜落した高さは約2.5m。	030302	1	1～9
2022	4	14 ～ 16	肥料製造設備において、故障のため停止していたサイロの部品交換を実施したがサイロの攪拌部が作動しないため、責任者と被災者でサイロ内に入り固着物を搬出していた。サイロ内の粉塵やにおいを除去するため、サイロ上部（高さ約6m）にある投入口を開放することになり一度サイロから出た。責任者が別の作業をしていたところ、被災者の声が聞こえたので振り向いたところ、墜落するのが見えたもの。	011709	1	1～9
2022	7	14 ～ 16	スクラップとして買い取った25トンダンプを鉄くずとしてリサイクルするため、同ダンプのショック・アブソーバーの解体作業中に、被災者が油圧シリンダーのネジ（全16本中14本）をインパクト・ドライバを用いて外したところ、ショック・アブソーバーの内圧によりシリンダーを固定していたネジ2本が破断し、シリンダーが飛んで、被災者の左顎下部に激突したもの。	080109	4	1～9
2022	8	8 ～ 10	被災者は、発電所内の石炭灰貯蔵サイロの灰出し作業中、当該サイロ内のホッパー上に堆積した灰（約3メートル程度）の上に乗る、バキュームホースを用いて当該灰を吸い出していたところ、足元の状態が緩み、堆積灰の中に埋没したもの。	030302	1	1～9
2022	9	8 ～	酒の仕込み用の水を貯蔵しているタンク（ホーロータンク）で、上部マンホールからタンク内（深さ約3m）に転落して溺れた。	010105	10	10～ 29

		10			
2022	10	10 ～ 12	製鉄工場構内にて、元請事業場からコークス工場内に設置された設備の修繕のため、部品の取替え作業を請け負い、同作業のため、手持ち式金属切断機を用いてボルトを切断していたところ、切断したボルト1本を混炭機内に落としてしまったことから、ボルトの回収のため、被災者のうち1名が同機内に入ったところ倒れ、当該被災者を救出のため近づいた職長も同機内で倒れ、被災したもの。	030302	12 10～ 29
2022	10	10 ～ 12	製鉄工場構内にて、元請事業場からコークス工場内に設置された設備の修繕のため、部品の取替え作業を請け負い、同作業のため、手持ち式金属切断機を用いてボルトを切断していたところ、切断したボルト1本を混炭機内に落としてしまったことから、ボルトの回収のため、被災者のうち1名が同機内に入ったところ倒れ、当該被災者を救出のため近づいた職長も同機内で倒れ、被災したもの。	030302	12 10～ 29
2022	12	8 ～ 10	高さ約30mの立体駐車場の解体工事において、被災者は自動車を格納するための搬器に乗って建屋内上部の軽量鉄骨の溶断作業を行っていたところ、休憩のため高さ約19mの地点から搬器を垂直に降下させていたとき、搬器が徐々に傾き始め、高さ約14mの地点で搬器が約80度傾き停止したが、搬器には手すり等の墜落防止設備はなく、また、被災者は墜落制止用器具を着用していなかったためそのまま地上まで墜落し死亡したもの。	030201	1 30～ 49
2022	12	10 ～ 12	建具の製造過程において発生する木くずを吸引しタンクに集積する機械である集塵装置について、装置内に木くずが溜まったことを示す警告が出たため、被災者が、点検口を開放して木くずの清掃作業を行っていたところ、装置内の回転する2本のスクリューに体の一部を巻き込まれ、集塵装置内に引きずり込まれたもの。	010503	7 10～ 29
2021	2	14 ～ 16	箱スタッカー装置（コンベヤーで運搬された洗浄した番重を自動で積み上げる装置）の補修を行っていたところ、番重を持ち上げるつめが上昇し、当該装置のフレームの間に胸部を挟まれたもの。	10109	7 500 ～ 999

2021	2	6 ~ 8	段ボール箱（原料入りで約200kg）から原料のコーヒーパウダーを製造ラインに投入する機械（エアシリンダーで箱を傾け投入する）の箱を乗せる台の囲いと被災者の乗る作業台の中さんに挟まれた被災者が発見され、搬送先の病院で死亡が確認された。マニュアルでは柄付きカッターを使用し投入口と箱の間に身体を入れることなく作業を行う手順であったが、発見時、作業台下に普通のカッターナイフが落ちていた。	10109	7	100 ~ 299
2021	3	10 ~ 12	重さ約1.2トンの精密機械を4トントラックの荷台から降ろす作業を行っていた。他の労働者が手動式ハンドリフトを操縦して精密機械をトラックパワーリフトの上に移動させていた。この時被災者は精密機械を支えて（補助）いた。精密機械がパワーリフトの上に乗ったとき、パワーリフトがしなるような状態となり、精密機械が地上に落下して被災者が精密機械の下敷きとなった。	40301	4	100 ~ 299
2021	4	12 ~ 14	建設現場等で使用するバツカン（産業廃棄物用ゴミ箱）内のゴミの分別の為、バツカンの縁に乗って作業していたところ、バランスを崩しバツカンの外側に墜落し、地面に頭部を強打した。バツカンの高さは110センチメートルであった。ヘルメットは着用していたが、頭蓋骨骨折・クモ膜下出血との診断を受けた。被災当初は意識もあり、命に別状はないとされていたが、容態が悪化し、死亡したもの。	150102	1	1~9
2021	5	14 ~ 16	事業場A内の発電所内において、定修工事として、排ガス硫黄分を吸収する吸収塔の下段エレメントの水洗作業をエレメント（ポリプロピレン製、200cm×50cm、厚さ19cm）の上に敷いた足場板（160cm×20cm）を移動させながら行っていたところ、被災者が足場板から足を踏み外してエレメントに乗った際にエレメントが割れ、30.2mの高さから塔底部に墜落した。	30309	1	1~9
2021	8	20 ~ 22	下水処理施設において、被災者1名にて、大雨の影響で水量が増えた汚水槽等からの排水作業を行っていたところ、汚水槽内に転落し、溺水により死亡した。被災者は、死亡推定時刻から約7時間後に汚水槽	11603	10	1~9

			内で発見されたが、発見時に汚水槽のマンホールの蓋が開いていた。			
2021	12	4 ～ 6	食肉卸売業である事業場内の食肉用大型冷蔵庫内で、頭から血を流して倒れている被災者が発見されたもの。災害発生時の目撃者なし。被災者は、同冷蔵庫内にある木製の棚（高さ180cm）に登って、冷蔵庫の入口上部にあるネズミの侵入防止用の布を外す作業を行っていた際に、同棚から墜落、あるいは同棚から下りた後に、転倒したものと推測される。	80109	1	1～9
2020	1	8 ～ 10	被災者は、他の労働者2名とともに、集塵機上の清掃及び足場の設置・解体の作業を行っていた。被災者と同僚1名の2名で7階レベルのマンホールから集塵機内に入場し集塵機の梁材上に設置した足場板や単管を一旦全て撤去し、次の作業を行うため、梁材の上で同僚1名と一緒に待機していた時、被災者は4階レベルの集塵機の屈曲部まで約17m墜落したものの。	30209	1	1～9
2020	2	14 ～ 16	トラックを運転し上記発生場所に入庫したドライバーが、上記発生場所の倉庫内で血を流し倒れているところを発見されたもの。災害発生状況から、被災者は積み込む荷を確認するため、荷の上に登り、転落した。	40301	1	10～ 29
2020	3	20 ～ 22	「マンション敷地内に埋設されている「ディスポーザシステム」の「処理槽」周辺で異臭」とのことで点検依頼を受け、担当者2名が入場していた。修理を要することとなり、会社にいる上司と電話連絡を取りながら作業に当たっていたが、午後の通話を最後に連絡が取れなくなった。一夜明けても連絡が取れないため、会社からマンションの管理人へ確認要請したところ、同システムの機械室内で倒れている2名が発見されたもの。	30302	12	30～ 49
2020	3	20 ～	「マンション敷地内に埋設されている「ディスポーザシステム」の「処理槽」周辺で異臭」とのことで点検依頼を受け、担当者2名が入場していた。修理を要することとなり、会社にいる上司と電話連絡を取りながら作業に当たっていたが、午後の通話を最後に連絡が取れな	30302	12	30～

		22	<p>なくなった。一夜明けても連絡が取れないため、会社からマンションの管理人へ確認要請したところ、同システムの機械室内で倒れている2名が発見されたもの。</p>			49
2020	4	14 ～ 16	<p>会社作業場内で移動式クレーンのタイヤ交換のため、タイヤ（直径134cm）をホイールに組み込む作業中、タイヤの上に乗って空気を充填中の被災者がホイールリングと共に天井まで吹き飛ばされた。また、近くで作業を見ていた1人が腕打撲の軽傷を負った。</p>	40301	15	10～ 29
2020	4	16 ～ 18	<p>フロンガスの移充填作業中に、フロンガスに含まれる液体を分離する装置（ヘッダー）が破裂し、被災者の頭部に激突したもの。</p>	30302	15	1～9
2020	5	8 ～ 10	<p>被災者と代表者の2人は、製氷施設2階貯氷庫において、氷で押し上げられ、閉まらなくなっていた鋼製ゲートを下げるため、代表者は、1階で氷搬出装置の操作、被災者は、ゲート東側支持水平材の乗り、ゲート西側に溜まっていた氷を竹棒で叩いて除去をしていた。1階にいた代表者が2階に様子を見に来たところ、被災者がゲートと貯氷庫の柱の間に挟まっていたの発見した。</p>	30309	7	1～9
2020	6	14 ～ 16	<p>溶鋼鍋に取付けられた傾転レバー（自重2100kg）のロックピン穴不良解消のため、三角リブの歪みを改修する作業を行っていた。被災者が、傾転レバーの下で何らかの作業を行っていたところ、傾転レバーが被災者側に傾き、傾転レバーと溶鋼鍋受け台との間に挟まれ受傷、病院搬送、同日午後ころ死亡が確認された。</p>	11001	6	100 ～ 299
2020	8	4 ～ 6	<p>被災者は、客先の塗装工場内に設置された粕池（塗装ブースで発生した余剰塗料及び水等の廃液を薬液処理する鋼製タンク）の上部において、粕池内で発生する廃液の泡立ち状況を確認する作業に従事していたところ、何らかの原因で点検口（縦60cm×横60cm）から深さ約3.3mの粕池内に墜落し、粕池内に沈んでいるところを発見された。</p>	80209	10	1～9

2020	8	6 ~ 8	古紙（段ボール）を機械で圧縮梱包する作業を行っていたところ、圧縮梱包機の上のホッパー内部に古紙がひっかかり、詰まりが生じたため、被災者は詰まり部の下にある点検口を開け、ホッパー内部に入り、古紙のひっかかりを下からつついて解消させた。その結果、ひっかかっていた古紙と、その上部の古紙が一気に落下し、被災者は古紙の落下に巻き込まれ、古紙に埋没し窒息した。入院し治療を行っていたが後日死亡した。	150103	4	1~9
2020	9	16 ~ 18	令和2年9月5日夕方頃、建造中のケミカルタンカー船室内での艀装作業を行っていた労働者が、消火設備用CO2ボンベ（高さ約160cm、重量約125kg）8本がセットされたラック（縦335mm、横2520mm、高さ1425mm、重量約188kg）の下敷きになっている状態で発見され病院へ搬送されたが、死亡が確認された。	11501	5	100 ~ 299
2020	9	16 ~ 18	搬送設備のホイストに取り付けられたセンサーが異常を検知し停止したため、動力を遮断せず、柵から身を乗り出して異常処理を行った際、ホイストが動き出し、柵との間に身体がはさまれて死亡したものの。	11001	7	100 ~ 299
2020	10	8 ~ 10	造粒機棟において、ホッパー内壁にこびりついていた堆積粉じんをエアチッパーを用いて削ぎ落していたところ、堆積粉じんが崩落し、生き埋めとなったもの。	11502	5	100 ~ 299
2020	11	8 ~ 10	電気設備改修工事現場において、既設の碍子洗浄装置（碍子の塩害防止のための散水装置）の撤去のため、当該装置の架台（各面がはしご状の直方体の鉄柱）に昇り、高さ1.4mの箇所で、取り付けられていたU字ボルトを取り外したところ、架台ごと後方に倒れ、停車していた高所作業車に激突し死亡したものの。	30301	5	1~9
2020	12	16 ~ 18	被災者は、工場内の清掃作業を実施していたところ、樹脂ペレット計量器上で、樹脂ペレット貯留容器（サイロ）の上下開閉扉に上半身を挟まれ死亡した。	11502	7	100 ~ 299

2019	3	20 ～ 22	銅を精錬する炉へ炭酸カルシウムを吹き込むホースを取替作業後、供給側のホースの接続部が外れ、炭酸カルシウムが吹き出し、付近全体が真っ白になったあと、ホースをつり上げていたロープ付近の煙道用配管（径60cm）にいた被災者が当該配管上から約5mの下の箇所に墜落した。	11101	1	～ 9999	1000
2019	4	8 ～ 10	ごみ処理施設内の設備の定期整備工事において、漏斗状のダクトに詰まった灰を下に落とそうとして、被災者が詰まった灰の上に乗って、鉄の棒で突いたところ、灰が崩れて埋没し、約5分後に救出し病院に搬送されたものの死亡した。	30309	1	1～9	
2019	5	12 ～ 14	工場内において、フレコンバックに入った合金粒をハンマークラッシャーのホッパーに投入し粉碎する作業を行っていたところ、機械内において爆発が起こり、全身熱傷を負ったもの。その後腹腔内感染症による多臓器不全により死亡したもの。	11001	14	50～ 99	
2019	6	22 ～ 24	同僚がゴムを冷却するための装置を停止させ、装置内部のゴムを垂れ掛けるためのパイプに付着した不純物をヘラで除去する作業を行っていた。パイプは複数あり、除去するためには装置を随時動かす必要があった。同僚が一度持ち場を離れた時に、別ラインで作業を終えた被災者が装置の内部に入り不純物の除去作業を行っていた。同僚が戻り作業を再開するため装置を稼働させたところ、被災者頭部がパイプとローラーとの間に挟まれた。	10806	7	300 ～ 499	
2019	8	14 ～ 16	被災者は、棚卸の準備作業の一環として、電動移動式鉄製ラックにある帳簿外品にその旨を貼付する作業を行うため、鉄製ラックの隙間内で作業していたところ、約20メートル離れた箇所で同様の鉄製ラックを使用していた別の作業員が、被災者に気が付かず鉄製ラックを移動させたことから、これに挟まり、頭部負傷により死亡したもの。	10109	7	100 ～ 299	
2019	9	18 ～ 20	被災者が、ゴルフ場内の道路上にて、芝刈り機を運転中、段差下に転落し、芝刈り機の下敷きになったもの。	140301	1	50～ 99	

2019	9	10 ～ 12	ダンプに玉砂利を積載、運搬してきた運転手が誤って砂のストックヤードに砂利を投下したため、被災者を含む4名の作業員と2名の運転手が砂の山の上で砂に混入した玉砂利を取り除く作業を手作業で行っていたところ、閉じていた砂山の底のホッパーが開き、砂がベルトコンベアーに流れたことで擂鉢状の穴が生じ、運転手1名が引き込まれるように生き埋めとなった。被災者は、運転手を助けようと穴に飛び込んだが生き埋めとなった。	10909	5	10～ 29
2019	9	10 ～ 12	ダンプに玉砂利を積載、運搬してきた運転手が誤って砂のストックヤードに砂利を投下したため、4名の作業員と2名の運転手が砂の山の上で砂に混入した玉砂利を取り除く作業を手作業で行っていたところ、閉じていた砂山の底のホッパーが開き、砂がベルトコンベアーに流れたことで擂鉢状の穴が生じ、運転手1名が引き込まれるように生き埋めとなった。	40301	5	1～9
2019	10	10 ～ 12	マンションの新築工事現場において、1階住戸のアルミサッシ取り付け部分の壁コンクリートを高圧洗浄機で水ハツリ作業中、誤って洗浄ノズルが被災者の右腹部に向き、右腹部を裂傷したものの。約7時間半後に死亡した。	30201	4	30～ 49
2019	10	20 ～ 22	火力発電所において、発電用蒸気タービンのマンホール内で隠しボルトを緩める作業中、被災者の靴が脱げ、落下した。被災者は、他の作業員の靴を借りて作業を行い、作業終了後に落下した靴を取りに約2m下に降りた。その後、自力で戻れなくなっている被災者を他の作業員が発見し、救出して病院へ救急搬送したが、火傷により死亡したものの。	11409	11	10～ 29
2019	10	16 ～ 18	被災者はパルパータンクの側面に立ち、ワゴンをリフトで傾けてタンク天板開口部から半端紙を投入する装置の操作及び開口部から攪拌状態を確認する作業を一人で行っていた。被災者の同僚が被災者作業場所付近を歩行中、被災者の悲鳴が聞こえ、駆け付けたところ被災者の姿はなく靴がタンク内に浮いている状態であった。その後、被災者は	10601	10	100 ～ 299

			レスキュー隊にてタンク内から救出されたものの意識はなく病院へ搬送されたが同日に死亡した。			
2019	12	14 ～ 16	資材プラントの焼土施設の一部である砂利を振り分け機械（振分機械）に砂利を投入するベルトコンベアーが不調であったので、その修理のために高さ2メートル以上の作業床及びその周囲において、ベルトコンベアーのモーターを取り外そうと、モーターの取付部及びその周辺の部品を分解する作業を行っていたところ、地上まで墜落した。	40302	1	10～ 29
2018	1	14 ～ 15	おがくずを集じん装置に送る送風機を動かしたところ異音が生じたため、直径60cmの送風管の清掃を行っていたところ、手を滑らせた等の理由により、頭を送風管の下向きの管に突っ込み、送風管に詰まっていたおがくずに埋もれてしまったもの。	10401	90	10～ 29
2018	1	12 ～ 13	貯酒タンク撤去工事において、貯酒タンク（地上からの高さ約20m）の上部（鏡部）を解体後、胴部分（φ6.8m）を上方から約5mの箇所にて、円周方向を12分割してガス溶断して地上に降ろす作業にて、分割した胴板10枚撤去後、自立していた2枚の胴板がタンク内側に倒れ、倒れたタンク胴板に安全帯を掛けていた被災者が胴板とともにタンク内に墜落した。被災者は足場解体のため足場（高さ17m）で待機していたもの。	30209	1	1～9
2018	6	16 ～ 17	加工室内ラインのトンネルフリーザー（蒸した蒲鉾を冷却する装置）傍の通路上にて、頭部から出血し倒れている被災者が発見されたもの（倒れた際の現認者なし。）。救急搬送され療養していたが、後日死亡した。	10102	1	300 ～ 499
2018	7	14 ～ 15	事業場の屋外に設置されたチラー設備（冷却水循環装置）の異常確認を行っていたところ、仰向けの姿勢で倒れているのを同僚の労働者に発見された。被災者は病院に搬送後、死亡が確認された。なお、災害発生時にはチラー設備の配電盤の覆いが外され、導線がショートしている状態が認められた。	80409	13	10～ 29

2018	8	16 ～ 17	メッキ処理前作業としてカゴ状のメッキ用治具に鋼管を装填する作業を行っていた被災者が近傍の冷却槽（約70℃）内へ転落。全身の約8割を熱傷し、入院加療していたが後日死亡したものの。	11204	11	10～ 29
2018	9	10 ～ 11	表面処理を行うために金属材料が入ったカゴ（バレル）を苛性ソーダなどが入った複数の処理槽に自動的に漬ける装置において、横行移動台車（バレルを移動させる装置）と建物の柱に身体がはさまれた。	11001	7	300 ～ 499
2018	9	0 ～ 1	地下駐車場で駐車装置の点検中、機械操作者が、被災者の乗ったパレットを最上部へ上昇移動させた。被災者はパレットに乗ったまま点検作業を行い、その位置での作業が終了したため、機械操作者が被災者の乗ったパレットを下降させようと操作したところ、パレットごと被災者が地下の地面へ墜落したものの。	170209	1	10～ 29
2018	10	8 ～ 9	排水処理設備の異常を知らせるパトランプが点灯していたため点検に行った同設備の担当者である被災者が帰ってこなかったため、探したところ、同設備のスクリーン室下の原水槽（深さ2m）にあおむけで倒れている被災者を発見したものの。	10102	10	10～ 29
2018	10	8 ～ 9	被災者はコンクリート製品であるボックスカルバートを製造を行う作業を一人で行っていた。工場長が現場巡視中にボックスカルバートと型枠（高さ2.1m、幅2.86m）との間に頭部がはさまれた状態で意識のない被災者を発見した。被災者は救急車で病院へ搬送されたが、後日死亡したものの。	10901	5	10～ 29
2018	11	8 ～ 9	事業場の敷地内において、派遣労働者がフォークリフトを運転して、半導体の洗浄機のブレーカユニット（高さ270cm×幅78cm×奥行き98cm、重さ約850kg）を運搬していたところ、当該ブレーカユニットが倒れ、誘導者としてフォークリフト付近にいた被災者が荷の下敷きになり即死したものの。	11301	6	10～ 29
		12	被災者は工場内において、ホッパーに砂を充填する作業を行なおうとしていた。フォークリフトで砂の入ったフレコンをつり上げて、フレコンからホッパーに砂を充填しようとしたが、屋内での作業はスパー			

2018	11	～	ス上、困難であったため、屋外で作業を行うことを考え、被災者は、	10909	7	10～
	13		ホッパーを人力で屋外に運んでいたが、ホッパーが転倒し被災者が下敷きになった。その後、被災者は搬送先の病院において、死亡が確認された。			29
2018	11	～	被災者は海上で浮沈式イケス（20m×20m）の周囲に設置されている浮き（60cm×120cm）を清掃する作業をしていたが、同僚が被災者の姿が見当たらないことに気づき捜索したところ、作業場所のすぐ脇の海面にうつぶせで浮いている状態で発見されたもの。救出後病院に搬送され死亡が確認された。被災者は自身で紐を引っ張り膨張させるベルトタイプの救命胴衣を着用していたが発見の時救命胴衣は膨張していなかった。	70209	10	30～
	12					49
2018	12	～	石油ストーブの間近で、エタノールを使用し、椅子に座りながら製品の洗浄作業を行っていたところ、椅子に敷いてあった座布団がストーブに接触していたことから、座布団から身体に燃え移り、火傷を負ったもの。後日死亡が確認された。	11209	16	10～
	14					29
	15					
2017	2	～	被災者が休憩している際に、暖房のため室内に設置された電気ストーブと接触したところ、着衣に火が燃え移り、全身に熱傷を負った。負傷後治療を受けていたが、容体が急変し死亡した。	80209	11	1～9
	18					
	19					
2017	2	～	工場内の量産ブースの作業場内及びその付近において、アルミニウム粉を含有した塗料を、エアースプレーガンを使用して塗装作業を行っていたところ、量産ブース内で爆発が発生して同量産ブースの設備から周囲のガラスビーズバーニッシュ設備（ガラス粉吹付設備）に延焼した。この事故により労働者3名が被災し、うち2名が広範囲熱傷のため死亡し、もう1名は全身火傷の重症となった。	11301	14	30～
	12					49
	13					
2017	2	～	工場内の量産ブースの作業場内及びその付近において、アルミニウム粉を含有した塗料を、エアースプレーガンを使用して塗装作業を行っていたところ、量産ブース内で爆発が発生して同量産ブースの設備か	11301	14	30～
	12					
	～					

		13	ら周囲のガラスビーズバーニッシュ設備（ガラス粉吹付設備）に延焼した。この事故により労働者3名が被災し、うち2名が広範囲熱傷のため死亡し、もう1名は全身火傷の重症となった。			49
2017	2	14 ～ 15	海上から陸揚げされたGPS波浪観測ブイの点検調査のため、点検業務に先立ち、バッテリー格納室の換気を行うため、被災者がブイ内部に入り、バッテリー格納室のマンホールを開けようとした時に、バッテリー格納室内部に充満していたと思われる可燃性ガスによる爆発が発生し、被災した。また、ブイ上部踊り場で監視していた者も爆風により負傷した。	170209	14	1000 ～ 9999
2017	5	8 ～ 9	石炭ベルトコンベヤーの上部に設置している磁選機（鉄片等をマグネットで取り除く機械）の異常エラーが発生したため、制御室担当者から磁選機担当であった被災者に連絡するも応答がなく、別の作業員へ連絡し、その者が磁選機へ確認に行ったところ、磁選機と石炭ベルトコンベヤーのチェーンカバーの間に挟まれている被災者を発見した。	11001	7	100 ～ 299
2017	8	12 ～ 13	弁当店の厨房で火災が発生し、働いていたアルバイト店員が被災し、死亡した。死因はCO中毒。被災者はフライヤーで調理中、トイレに入ったところ、トイレの扉の前に米袋が倒れ、トイレに閉じ込められた。その間、フライヤーが過熱し発火したものと考えられる。	80209	16	1～9
2017	8	16 ～ 17	天井クレーン（ごみクレーン）の部材を溶接していたところ、火花が当該クレーンのバケット上部に堆積していたゴミに引火した。周囲にいた労働者が消火したが、当該クレーンのガータ上で作業していた被災者が約8メートル下のコンクリート床面に墜落し、死亡した。	30309	1	30～ 49
2017	9	0 ～ 1	被災者は、商業店舗の警備を行っていた。店舗の営業時間が終了し、店舗の従業員が帰る際に駐車場のシャッターが完全に閉まっていなかったのを確認したところ、被災者がシャッターと乗っていたバイクに挟まれた状態であることを発見した。救急搬送されたが、死亡が確認された。	170201	7	300 ～ 499

2017	10	14 ～ 15	顧客先工場のレイアウト変更にかかる設備運搬業務において、被災者と同僚の2名は、金メッキ装置（高さ2m、幅5m、奥行1m、重量1t）を台車及びハンドリフトを用いて設置位置に移動させようとした。各人が装置後方の左右に分かれ、装置を手で押したが動かず、一旦状態を見ようとしたところ、設備が被災者側に横転し、その下敷きとなった。	40301	5	10～ 29
2016	1	10 ～ 11	塗装補修用の単管足場の設置作業に従事していた労働者が、足場鋼管パイプ用のクランプを取り付けるため、500A配管の上を安全帯を使用することなく移動していたところ、足を踏み外し、10m下の地面に墜落し、死亡した。	30209	1	1～9
2016	1	22 ～ 23	警備員がゴミ庫のシャッターを施錠するため、設備担当とゴミ庫内を確認に行ったところ、生ゴミ用コンテナと生ゴミ搬出設備の柵の間に挟まっている被災者を発見した。	150103	7	30～ 49
2016	1	23 ～ 24	建築物の雨水排水管の詰まり（ヘドロ等によるもの）を除去するため、敷地内に設けられた人孔（湧水、雨水、汚水の集合させる枡）に被災者が立ちいていたところ、突然、湧水が流入し、被災者が人孔内で溺死した。	30110	10	10～ 29
2016	2	14 ～ 15	被災者は工場内において、局所排気装置（塗装ブース）内に設置していた高さ47センチメートルの鋼製踏み台の上で中量ラック棚板（製品）を吹き付け塗装を行っていたところ、踏み台後方に降りた際、作業床に置いていた吹き付け塗装の溶液ホースに足を引っ掛け転倒し頭部骨折の治療のため入院していたが腎不全にて死亡した。	11209	2	10～ 29
2016	2	12 ～ 13	被災者は、ばねの表面処理装置（自動運転）を使用して、処理前のばねが入ったステンレス製容器（カゴ）を装置にセットし、処理した後、同容器を装置から取り出す作業を行っていた。昼休憩になり、同僚は昼食のため現場から離れ、被災者は一人で作業を行っていた。同僚が現場へ戻ってきたところ、被災者が装置の柱（H鋼）と搬器（ねじの入ったカゴを移動させるもの）に上半身を挟まれた状態で発見さ	11209	7	50～ 99

			れた。			
2016	3	9 ～ 10	ゴミ処理場の一般可燃ゴミ焼却炉の集じん機内部で発生した災害。被災者がろ過式集じん機内部にて蓄積灰の除去作業を行っていたところ、何らかの理由で蓄積灰が崩壊し埋もれた。	150109	5	50～ 99
2016	5	11 ～ 12	発電設備のチューブフィーダーの交換作業のため、チューブの引き抜き作業中、引き抜き作業の作業写真を撮影していた労働者に駆動部が落下し、下敷きとなった。	11702	4	10～ 29
2016	6	9 ～ 10	貯水槽の点検・清掃作業準備の為、貯水槽の上に上がっていた労働者が高さ約5メートル下の地面に墜落した。被災者は病院へ搬送された後、死亡した。	150101	1	300 ～ 499
2016	6	9 ～ 10	本社工場において、油脂の成分分離作業後、高温となった油脂をクッションタンクに移す作業中、何らかの原因でタンクが破損し、付近にいた被災者に大量の内容物がかかった。災害発生直後、病院に搬送され、治療を受けていたが死亡した。	10899	15	10～ 29
2016	7	2 ～ 3	被災者は、翌日の勤務に備えて従業員宿舎で就寝していたところ、同宿舎に隣接する物置小屋から出火し、逃げ遅れた結果、焼死体となって発見された。	140101	16	1～9
2016	8	11 ～ 12	工場内の冷凍庫から被災者が台車に積んだ荷物を押して出ようとした時に、扉を閉めるボタンを押した後、閉まってきた扉とキーボックスの間に挟まれた。病院に搬送されたが、同日に死亡した。	10102	7	30～ 49
2016	8	15 ～ 16	配管の点検補修工事において、配管にエアを入れて漏れ等の点検（石鹼水を使用し配管の溶接部のエア漏れの確認）作業を行っていたところ、突然、配管が破裂し、その風圧で、足場（高さ約8メートル）にて点検作業をしていた被災者が約50メートル吹き飛ばされ死亡した。	30203	15	1～9
		7	業務補助職員は、トイレに行くため、1階警備室を出て1階ホールを通りかかったところ、人のうめき声を聞いた。業務補助職員は、うめ			300

2016	9	8	～	き声が聞こえる総合窓口センターへ行ったところ、防火・防災シャッターと床の間（10cm程度）に首から肩部分を挟まれた状態の被災者を発見した。	150101	7	～	
2016	10	7	8	～	午前6時から、被災者らは船の中間検査のための入渠作業に従事していたところ、午前7時前に一旦入渠のために開けたゲートが船の方に近づいてきたため、被災者がゲートを調整するロープを固定し直しに行き引っ張ったところ、結びつけるピットが折れ曲がり、その勢いで後ろに倒れた際側にあった岩に後頭部を打ちつけ脳挫傷により死亡した。	11501	19	1～9
2016	10	15	16	～	水汚泥分離リサイクル車の修理のため現場へ出張し、同車のタンクを上げて、油漏れ箇所を修理していたところ、突然タンクが下がり、タンクと車体の間に挟まれ、死亡した。	11702	7	10～ 29
2016	10	10	11	～	金属スクラップを電気炉で溶かす際に発生する排ガスを処理する「急冷室」で水漏れが発生しているのを発見、確認のため急冷室の基部にあるゲートを開放したところ、ゲートからダスト混じりの熱湯及び水蒸気が噴出し、ゲート付近にいた2名が火傷した。2名の内1名が、入院先の病院で死亡した。	150109	11	1～9
2015	11	19	20	～	被災者は詰所に溜まっていた一般ゴミを二輪車に載せて脱硫場に運び、約350℃のスラグが入った鍋（地上からの高さ約1.6m）に投入して燃やすため、操作室にいる同僚へ要請してこの鍋を移動させた。その後、被災者から操作室の同僚に「助けて」と連絡があり、駆け付けたところ、鍋の近くの通話器の横で倒れていた被災者を発見した。搬送先で11月18日に死亡。	11001	11	100 ～ 299
2015	9	16	17	～	醤油を製造するためのもろみを入れてある発酵タンクの攪拌作業を行っていた被災者が、発酵タンク（幅約5m、奥行き約5m、深さ約3.5m）に浮かんでいるところを発見されたもの。もろみ表面の酸素濃度は約12%、発酵タンク周辺の酸素濃度は約21%であった。なお、発酵タンクがある場所には全体換気装置が設けられており、災	10109	10	50～ 99

			害発生時は稼働していた。			
2015	5	14 ～ 15	発電所において、復水器の残水処理のため内部で作業していた際に転倒した。被災者が頭を打ち、吐き気を訴えたため、市内の病院へ搬送し、入院加療を行っていたが、平成27年5月30日に死亡した。	30302	2	10～ 29
2015	3	6 ～ 7	5階建てアスファルトプラントにおいて、4階と3階を仕切るエアードライブ式開閉ゲートに付着したアスファルトガラをエアハンマーで除去する作業を行うため、開閉ゲート直下にトロリーと呼ばれる計量設備のリミットスイッチに、アスファルトを均すトンボの柄で開の位置で押さえた。脚立に乗って開閉ゲート付近のガラ除去を被災者単独で行っていたところ、開閉ゲートが閉まってしまい、頭部をはさまれた。	10804	7	10～ 29
2015	6	7 ～ 8	作業員2名がボックスカルバートの型枠の外側に取り付けられた足場の上で、当該型枠の脱型作業中、型枠を固定していたボルトを外したため、当該型枠が倒れ、足場上で作業をしていた2名が型枠とともに地面に墜落、1名が死亡、1名が負傷した。	10909	1	10～ 29
2015	9	11 ～ 12	被災者は、事業場内において、鋼線の脱脂を行う脱脂洗浄設備のうちシャワー洗浄工程の異常を点検しようとして前後に移動するシャワーヘッドの可動範囲内に体を乗り出した為、前進してきたシャワーヘッドと、可動範囲外側に設置されていたアングル（鉄製の枠）との間に、頸部から右肩にかけて体を挟まれ、頸部圧迫等により死亡したものの。	11001	7	50～ 99
2015	1	14 ～ 15	産業廃棄物処理工場において、ばい煙冷却装置（直径2.2m、高さ7.3m）の不具合の調査中、熱湯となっていたばい煙冷却装置の冷却水を浴びて全身熱傷を負った。	150102	11	1～9
2015	7	0 ～	被災者は、午後2時半頃、当日の生コン打設が終了したので、一人で生コン原料を混練するミキサー及び生コン打設機を洗浄ガンにて洗浄していた際、生コン打設機のホッパー部（縦横146cm、深さ150cm）に転落し、左足をホッパー底部の送出スクリー（長さ約1	10901	1	10～ 29

	1	00cm、径26cm)に巻き込まれた。救出に約4時間かかり、被災者は救急搬送されたが出血多量で死亡した。			
2015	1	被災者と同僚1名は、食材選別室内で、殺菌熱槽(1.3×1.5×1.0m/湯90℃)脇の壁と換気扇の清掃を終え、被災者は同室に残った。その後、大声が聞こえ、同僚が同室に戻ったところ、冷水を浴びていた被災者を発見した。被災者は全身に火傷を負い、搬送先の病院で治療中だったが、1月18日死亡した。被災前後の現認者いない。壁等の清掃状態が気になった被災者が、何等かの対応に当たろうとしたものと推定される。	10103	11	100 ～ 299
2015	4	取引先工場への出張メンテナンス作業中、大型射出成型機の配管補修作業において、当該配管の締め付け時に工具が外れてバランスを崩し、コンクリート床面まで墜落(高さ5.16m)したもの。	80209	1	1～9
2015	12	水素冷却方式のタービン発電機の固定子枠(発電機の構成部品)の予備加圧検査(漏れの有無を確かめる検査)の結果、固定子枠の蓋から空気が漏れていることが判明し、蓋のボルトの増締めを行っても漏れが解消しなかったため、被災者ほか1名が昇降機により蓋の近くまで上昇し、パッキング手直しのために他の労働者が蓋を外している途中で蓋が飛んで被災者の顔面に当たり、その反動で高さ約3.3mの昇降機から床面に墜落したもの。	11401	15	300 ～
2015	10	被災者が一般機械用のオイルフィルタータンクの溶接漏れ検査工程で、フタ部分と本体をインパクトレンチでVバンド(万力)により締め付け(1箇所)、内部にエア(空気圧)0.5MPaを注入した後、Vバンドの締め付けナットをインパクトレンチで緩めたところ、フタ部分が被災者に向かって飛来し、フタの頭頂部に付いていたエア注入用のカップラ一部分が腹部に刺さった。	11301	4	30～ 49
2015	1	濃縮器点検準備作業のため、被災者が点検治具の受台の固定ボルトを外したところ、受台が回転し、被災者の頭部に激突した。	30309	6	10～ 29

		10				
2015	5	12 ～ 13	被災者は、フォークリフトの点検・整備作業のため、二柱リフトで持ち上げたフォークリフトにリアアスクルビームを取り付けていたところ、同二柱リフトから床へ落下したフォークリフトに当たったもの。当時、被災者は1名で作業を行っていた。目撃者がいないため詳細調査中。	80209	4	10～ 29
2015	8	5 ～ 6	被災者は、トラクターショベルを運転して鉄粉等の原材料をホッパーへ投入する作業を行っていたが、何らかの異常事態があり、鉄粉の配合槽上部へ上り墜落防止用手すり（高さ1.1メートル、中さん2段、金網張り）の内側（開口部側）へ入ったところ、開口部から配合槽の中へ墜落した。配合槽内部に堆積していた鉄粉までの高さは約4.9メートルであった。被災者は安全帯を着用していなかった。	11001	1	100 ～ 299
2014	1	10 ～ 11	被災者2名は、現場内の地下にて、機械式立体駐車設備（3層）の下段パレット（車を載せる台）上で停止位置の確認作業をしていたところ、頭上から落下してきた上段パレット（約900kg）に押しつぶされ、死亡した。	30302	4	10～ 29
2014	1	10 ～ 11	被災者2名は、現場内の地下にて、機械式立体駐車設備（3層）の下段パレット（車を載せる台）上で停止位置の確認作業をしていたところ、頭上から落下してきた上段パレット（約900kg）に押しつぶされ、死亡した。	30302	4	10～ 29
2014	2	10 ～ 11	惣菜の調理場にて、被災者は揚げ物を調理中、油の入った鍋に両腕を付いてしまい両腕の肘から指先までを火傷した。	80209	11	1～9
2014	2	16 ～ 17	厨房で夕飯を作っている際、着衣袖口にガスコンロの火が引火し、燃えたため熱傷を負い、敗血症性ショックにより死亡した。	130101	11	1～9
2014	3	12 ～	被災者は、照明等を吊るために設置する支柱を組立て作業中、支柱の8段目（高さ約15m）で移動しようと、支柱に架け渡してあった足	100109	1	30～

		13	場板に足をのせたところ、足場板が滑動し、墜落した。			49
2014	3	21 ～ 22	アスファルト合材プラントにて、被災者は同僚と2人で手すり（高さ1.1m）付きの点検歩道（幅58cm）上で、100トンサイロの上部にある自動運転時の停止位置を決めるリミットスイッチの調整作業を行っていたところ、体勢を崩して高さ15メートルから地上に墜落した。	10909	1	10～ 29
2014	4	17 ～ 18	ガス溶断にて、スクラップバケットの解体中、円柱状の同バケットの一部が倒れ、被災者が付近にあった鉄製のかごとの間に挟まれた。	30302	5	1～9
2014	5	16 ～ 17	研磨用の産業用ロボットの作業数を数える装置（カウンター）の取付け中、カウンターと産業用ロボットのコントローラをコネクター（電線）をはんだ付けにより接続後、コントローラーの主電源を入れた際、コントローラーの後ろ側から火花が走り、消火砂をかけたところ、火が広がり、爆発した。	11209	14	30～ 49
2014	5	16 ～ 17	残コンクリートの処理機（トロンメル分級機）内部の清掃作業中、処理機のカバー天板を元に戻すため、トラクターショベルのバケットで天板を持ち上げた際、天板が傾いたため、被災者は、片足を処理機の中段付近にある角パイプに掛け、反対の足をショベルのバケットに掛け、天板の傾きを直そうとしたところ、バランスを崩し、2.45メートル下のコンクリート床に墜落した。	10901	1	10～ 29
2014	6	20 ～ 21	機械室の精製水タンクに設けられた梯子の側柱と、最上段の横さんには、携帯電話用ストラップを掛け、被災者が梯子を背に首を吊った状態で発見された。	10803	1	50～ 99
2014	8	8 ～ 9	コンプレッサーに内にある熱交換器の既存部品を取り外そうとした際、熱交換器内に残存圧力があり、部品が飛び出し、被災者に激突した。	11301	6	100 ～ 299
		18	ハンドリング装置でハッチカバーの自動溶接作業の片付け作業中、ハ			10～

2014	8	～ 19	ンドリング装置の上部から3.5m下に墜落し、死亡した。	11301	1	29
2014	8	11 ～ 12	工場内の清掃作業中、ふるいを高温水を用いて洗浄していたところ、被災者が、頭を押さえながら倒れこみ、死亡した。	10109	13	50～ 99
2014	9	10 ～ 11	建設工事現場にて、衣服の汚れを圧縮空気で落としていたところ、体内に圧縮空気が入り、その後病院に運ばれたが、死亡した。	30302	90	10～ 29
2014	10	～ 20	ごみ焼却施設の冷却洗浄塔にて、塔下部から循環水槽へつながる配管に設置されたストレーナの詰まりを除去した際、ストレーナの上蓋がはずれ、全身に熱湯を浴び、約2m下に墜落した。	150103	15	1～9
2014	10	13 ～ 14	港の岸壁に設置された船舶からダンプトラックへ砂の積み替え作業に用いるホッパーの修理作業中、被災者はダンパー内の排出口部分の鉄板の補強を行うため、トラック荷台上に設置した脚立の上に立ち、排出口の寸法を測っていたところ、ダンパーが閉じ、上胸部を挟まれた。	30309	7	10～ 29
2014	11	10 ～ 11	鋼片工場にて、柱間の歩廊を張り替える工事中、朝に被災者が柱根元付近に立っているのが数度同僚に目撃されていたが、午前休憩に入る際、柱付近に設置してある設備の隙間でうずくまっている被災者が発見された。	30309	1	1～9
2014	11	19 ～ 20	溶解亜鉛めっき業工場にて、被災者が鉄製のかごをつり上げ、クレーンを使用させ、熱せられた塩化アンモニウムを水溶液に入れる作業をしていた際、被災者がフラックス槽に転落。全身熱傷を負い、死亡した。	11204	11	30～ 49
2014	12	～ 3	下水道管の点検作業中、下水道管路上にて、機材の撤去作業を行っていた際、上流側に背を向けた状態で作業を行っていたところ、下水管より外れて流されてきたバルーンと下水管側壁に挟まれ死亡した。	150109	7	1～9

2014	12	13 ～ 14	<p>炉から銑鉄を取り出す取鍋を整備場でメンテナンスしていたところ、取鍋の取っ手が倒れ、被災者が下敷きとなった。</p>	10904	5	10～ 29
2014	12	10 ～ 11	<p>調理台の上にて、上方にある棚の清掃作業中、墜落し、コンロ台で背部を打ちつけ、死亡した。</p>	80209	1	1～9
2013	5	10 ～ 11	<p>個人宅の北側外壁際に設置していた貯湯タンク（重量約540kg）の西側の基礎土台が沈下してタンクに傾きが生じたため、傾き補修のため東方向にワイヤーにて引っ張り、沈下した側の土台下にかさ上げブロックを入れようと、上席者と被災者の2人で西側土台の下周りの土をスコップで掘り、西側土台が完全に浮いた状態になった時、突然タンクが北側に倒れ、被災者がタンクと北側擁壁との間に挟まれた。</p>	30309	5	1～9
2013	8	11 ～ 12	<p>被災者と同僚労働者の2名が、顧客先へ出張し、固液分離装置（豚の排泄物を脱水し、固体と液体に分離する機械）の修理作業を行っていたところ、固液分離装置の近くにある浄化槽（深さ3.9m）に被災者が転落した。尚、浄化槽には汚水（豚の排泄物）が深さ3.6m溜まっていたため、被災者は溺れて窒息死した。</p>	11301	1	10～ 29
2013	8	11 ～ 12	<p>被災者は、混合設備棟内のカーテンによって区画された作業場において、塩化ナトリウム粉末を粉碎機に投入する作業を1人で行っていた。付近で作業していた同僚がカーテンの隙間から被災者の作業場を見た際、袋詰めにするべき粉体が袋から溢れ出て周辺に落ちていたため、不審に思い、作業場に近づいたところ、被災者が粉碎機の投入口付近で倒れていた。</p>	10801	13	100 ～ 299
2013	12	17 ～ 18	<p>工場内に設置されている自動亜鉛めっき装置の電解脱脂槽の電極部分の端子を交換するため、被災者は一人で当該事業場に出張し、修理作業を行っていたが、作業箇所で倒れているのを工場長に発見された。</p>	11301	7	30～ 49
2013	10	15 ～	<p>鉄粉及び鉄くずを入れるホッパーが詰まり、排出口から出ないため、詰まりの除去作業を行っていたところ、誤って転落し鉄粉に埋まっ</p>	11301	1	100 ～

		16	た。			299
2013	4	10 ～ 11	被災者は、加圧浮上槽（高さ2.4m、直径1.7mの円筒型）の上 部において、同槽内に浮上する汚泥を排土溝に流し込む掻き寄せ棒に 巻き込まれ、窒息死に至った。尚、掻き寄せ棒は、同槽の上部で水平 方向に回転するものであり、被災労働者は同棒と同槽上に設置されて いる作業床との間に挟まれた。	11703	7	10～ 29
2013	12	14 ～ 15	浄水場の設備調査のため、汚泥攪拌槽（3m×5m×H2.6m）の 上で2名で写真を撮影しており、写真を撮り終わり槽の上を歩き、被 災者が木製の蓋に乗ったところ、蓋がたわみ汚泥の溜まった槽内に落 ちて死亡した。尚、槽の上部には鋼製の蓋が3つ設置されていたが、 うち1つはサンプリング調査のため木製の蓋が設置されていた。	170209	1	1～9
2013	6	11 ～ 12	被災者は、合材工場内の木質バイオマスコージェネレーション施設内 において、空気予熱器内の定期清掃作業中、高さ約13メートルの点 検口から予熱器底部に墜落した。尚、4器の空気予熱器のうち3器は 煙管上での清掃作業であったが、墜落した1器は構造上煙管がないタ イプであった。	10804	1	10～ 29
2013	5	9 ～ 10	プラスチック容器の成形ラインにおいて、機械（重量700kg）の 入替作業に際し、撤去する機械をジャッキアップしていたところ、当 該機械のバランスが崩れ、当該作業中の被災者側に倒壊し、床との間 に挟まれた。	10805	5	100 ～ 299
2013	1	8 ～ 9	被災者は、業務用冷凍庫（高さ256cm）の上に乗し、キャスター 付きラック（重さ20kg）を、冷凍庫の上に引き上げた後、冷凍庫 の上を整理していたところ、何らかの原因でコンクリート床に墜落し た。	80109	1	1～9
2013	10	13 ～ 14	アルミニウムのリサイクル工場で、アルミニウム残灰を溶解炉で溶か し、アルミニウムを再抽出する工程において、処理後の灰を冷却ドラ ムに投入する際などに発生する粉じんを吸引する局所排気装置のダク ト内で爆発があった。爆発時に労働者2名が被災したが、全身火傷で	11101	14	10～ 29

			1 名が収容先の病院で死亡した。			
2013	2	14 ～ 15	民家の凍結した水道管を解凍するため、水蒸気により氷を溶かす方式の解氷機をコンロで暖めていたところ、解氷機の容器が破裂し、容器の破片が被災者の頭部に当たった。	80204	15	1～9
2012	6	1 ～ 2	4 tトラックに荷物の積込みを終え、倉庫を出発した。配送先に到着後、荷物納品トラックヤードの電動シャッターをリモコン操作で開け、建物内の防犯装置を解除した後、シャッターを閉め、一旦トラックに戻ったところ、リモコンを建物内に忘れたことに気付き、閉まりかかっているシャッターの隙間から建物内に入ろうとして、シャッターと床にはさまれた。	40301	7	50～ 99
2012	4	14 ～ 15	除塵機にレーキ（鉄製の先端が櫛状になった部品）を取り付ける作業中、沈砂池ポンプ棟地下1階にいる作業者がテルハを用いてレーキを降下させていた際、レーキが急激に加速し、同地下3階にある水路内のスクリーン（鉄製の格子状の板）裏にいた被災者がスクリーン開口部とレーキの間に頭部を挟まれた。	30302	7	1～9
2012	1	17 ～ 18	シールド2次覆工における坑内電線撤去作業中、牽引中の電線台車が転倒し、電線台車の横にいた作業員が台車の下敷きになって死亡した。	30110	5	1～9
2012	2	14 ～ 15	被災者は薬品自動計量機内の反転装置に不具合が生じたため、主電源を投入したまま、プラグスイッチが設置されてある整備用ドアを開け整備作業を行っていた。しかし、当該プラグスイッチは機械装置全体を止める構造でなかったため、修繕途中に反転装置が動きだし、反転装置と反転装置支柱の間に挟まれ、死亡した。	10806	7	300 ～
2012	9	10 ～ 11	被災者は遠心機を使用してコンクリートを締め固める作業をしている際に、型枠から異音が生じたため、遠心機の運転を停止し、工場長とともに型枠についたバリを防音カバー内に入ってエアグラインダーによって削り取った。その後、工場長が遠心機を寸動で動かし型枠の異音が無くなったことを確認し、運転ボタンを押したところ、遠心機の	10901	7	10～ 29

			運転と連動して防音カバーが閉まり、被災者は頸部等を挟まれ死亡した。			
2012	8	11 ～ 12	倉庫において、被災者は同業者からの注文品を探すため、フォークリフトの昇降機能を利用して高さ3.8mの移動式のスチール棚の最上部に至り、同所の在庫品から注文品を見つけようとしたものの見つからず、再びフォークリフトで地上に引き返そうと同僚に声を掛けて合図した。合図を受けた同僚がフォークリフトの進入路を確保するためスチール棚を移動させたところ、棚と棚との間に生じた開口部から被災者が転落した。	10209	1	50～ 99
2012	4	13 ～ 14	被災者は生徒とインストラクターの2人乗りパラグライダーの離陸補助をしていたところ、被災者の片腕がパラグライダーのハーネスに引っ掛かった状態で離陸し、被災者が数十m上空から山中へ墜落した。	120109	1	1～9
2012	11	11 ～ 12	被災者はホールディングタンク内に入っている牛乳の液面の高さを確認するために、液面に発生している泡を取り除こうと踏み台に乗り、タンク内に身を乗り出して金網で泡をすくい取っていたところ、体のバランスを崩し、タンク内に転落して全身に火傷を負った。	10101	11	30～ 49
2012	1	14 ～ 15	船舶の修繕作業における高圧スプレーを用いての洗浄作業（古い塗装を剥がす作業）において、被災者は船底部分の作業を終え、次にドッグ内に置かれていた重さ約5 tの錨を洗浄していたところ錨が倒れてきて、頭部を錨のアーム部分と地面に挟まれて死亡した。なお、錨は船舶から外されており、約60度の角度で木製パレットの上に立てられていたが、ワイヤー等で固定されてはいなかった。	11501	5	10～ 29
2012	11	19 ～ 20	発電用スターリングエンジン（外燃機関）のクランクケース（耐圧5MPa）の窒素ガスによる気密試験中、3MPaまで昇圧し、ボルト部に漏れがあったので増し締め後、5MPaまで昇圧中にクランクケースが破裂し、1名が死亡、2名が腕等を負傷したもの。	11301	15	1～9
		21	被災者は店舗内のバックヤードに集積してあったごみを台車に乗せ、			10～

2012	9	～	店舗が入っているビル1階にある共用ゴミ集積所に運んだ際、ゴミ収集	80209	7	
		22	所出入り口シャッターに首を挟まれた。			29
2012	6	～	被災者はクレーン台船上でスパットを固定している鉄板の位置を変え	30111	7	1～9
		15	るため、既に固定されていた鉄板の上部に新たに鉄板を取り付け、既			
		16	に固定していた鉄板を外したところ、突然スパットが落下し、スパッ			
			トに新たに取り付けた鉄板と床との間に頭部をはさまれた。			
2012	12	～	建屋集塵機の清掃の際、被災者は集合ダクト内の粉じん堆積状況を確	150102	1	10～
		12	認するため当該ダクト内に入り確認していたところ、集合ダクトから			29
		13	繋がる垂直ダクト（高さ約15m）の開口部から墜落した。			
2012	9	～	ジェットコースターの登り部送り装置（チェーン式）の下側の歯車	170209	7	10～
		14	（スプロケット）部で油さし等の補修作業を行っていたところ、動い			29
		15	てきたジェットコースターの車両（搬器）とレールの間にはさまれ			
			た。なお、当該補修作業は、ジェットコースターを通常通りの営業			
			（運転）しながらの作業であり、ジェットコースターの起動は、			
			ジェットコースターの運転操作者と被災者の間での相互確認により行			
			われていた。			
2011	10	～	被災者は、電気集塵機のホッパー内部において、パワープロペスター	11001	5	50～
		10	車を用いて堆積したダストをガス遮断板（h＝5.6m、t＝3.2			99
		11	mm）の下部マンホールから吸引する作業を行っていたところ、ガス			
			遮断板が上部から破損したことにより、破損部から流出してきたダス			
			トに埋もれ被災したものの。			
2011	8	～	ドック内の自動車運搬船にあるウォーターバラストタンク内で、当日	11501	13	300
		18	の作業を終了した被災者が、船外へ向かうため作業場所を出て船内を			～
		19	通行中、通路上の送風機に接触し、送風機が漏電していたため感電死			
			したものの。			
2011	6	～	昼休憩（12時～13時）を終えて、産業廃棄物の圧縮梱包ラインに	150102	1	50～
		12	よる作業を再開しようとした労働者が、共同作業者である被災者の姿			
			が見えないことに気付き、他の労働者と共に探したところ、圧縮機の			

		13	シュート付近（1階）の廃棄物の中に埋もれた状態となっている被災者を発見した。死因は窒息による。			99
2011	2	11 ～ 12	境内の平屋建て木造建築物が全焼し、焼け跡から被災者が遺体で発見された。	170209	16	1～9
2011	1	22 ～ 23	23：35分頃、高さ9m、直径2.6mの液体糖質貯蔵タンク内（当日貯蔵率70%）に落下している被災者を、班長が発見した。ただちに119番通報がなされ、レスキュー隊による救出が行なわれたが、0：45分死亡が確認された（窒息死）。単独作業であるため目撃者はいないが、付近の状況から、同タンク上部のマンホールのふたを開け、粉末糖質を、投入しようとしていた時、同マンホールから誤って落下したものと推定される。	10109	1	100 ～ 299
2011	1	17 ～ 18	従業員休憩室でお茶を飲むためキッチンのプロパンガスコンロ（家庭用の製品）でヤカンを用いて湯を沸かし、当該コンロに背を向けていたところ、着用していたエプロンのヒモにコンロの火が着火した。被災者は火を手で消し、火傷した手をキッチンの水道で冷やしていたところ、着衣の背中が燃えだしたものの。病院にて治療が行われていたが、2月8日に死亡した。	80201	11	30～ 49
2011	11	20 ～ 21	自動車部品（チェーンピン）を鉄製の容器に入れて加熱・冷却する表面処理工程において、加熱処理後に冷却機に移されていた容器内の部品を取り出すため、容器の蓋（約20kg）を固定していたボルト4本のうち3本を外したところ、容器の内圧により蓋が飛んで被災者の頭部を直撃した。	11509	4	100 ～ 299
2011	8	9 ～	塩酸の入ったタンクの上部配管を移設するため、作業員Aは、配管の切断位置等を確認するためタンク上へ乗ったところ、タンク天板が抜けてタンク内部に転落した。それを目撃した同僚Bは、Aを助けるため、タンク上のマンホール部にしゃがんで救助を試みるもマンホール	30302	12	10～ 29

		10	ごと抜けてしまい、Bもタンク内に転落した。タンクはFRP製で、塩酸濃度は35%であった。また、内容量は6.8立方メートル、水深約2mであった。			
2011	8	9 ～ 10	塩酸の入ったタンクの上部配管を移設するため、作業員Aは、配管の切断位置等を確認するためタンク上へ乗ったところ、タンク天板が抜けてタンク内部に転落した。それを目撃した同僚Bは、Aを助けるため、タンク上のマンホール部にしゃがんで救助を試みるもマンホールごと抜けてしまい、Bもタンク内に転落した。タンクはFRP製で、塩酸濃度は35%であった。また、内容量は6.8立方メートル、水深約2mであった。	30302	12	10～ 29
2011	7	16 ～ 17	被災者は、はしご兼脚立をはしごとして使用し、そのはしごを足場に、自家発電装置の外壁に取り付けられていたその付属部品をガス溶断して取り外す作業を行っていた。外壁と付属部品を固定していたL字アングルや配管を溶断していた際に、付属部品が溶断途中の配管を中心に回転し、被災者に向かってきた。被災者とはしごが先に地面に墜落し、仰向けに倒れていた被災者の胸部に付属部品が落下激突したものの。	80109	4	1～9
2011	11	19 ～ 20	発電所の放水戸付近の土砂を潜水作業で除去しようとしたところ、何らかの原因で潜水士のマスクが外れて溺死した。（現認者なし）	30309	10	30～ 49
2011	9	5 ～ 6	被災者は、港の沖約400mの海上の漁船（サケの定置漁業を行うもの。総トン数17t）において、接近中の台風に備えて海上に設置されたサケの定置網を船倉に引き上げるため、左舷側の甲板上で定置網を回転するローラーに送り込む作業を行っていた際、左半身をローラーに挟まれて被災したものの。	70201	7	1～9
		22	浴場業を営む事業場内に住み込む被災者が11月1日午後10時頃から浴室清掃業務を始めた。事業場内で11月2日午前3時頃、事業場内に居住する代表者が浴室の電気がついていることを不審に思い浴室			10～

2011	11	～ 23	を見たところ、浴槽内に浮いている被災者を発見し119番通報した もの。検死の結果、死亡推定時刻11月1日午後11時頃、死因溺水 とされたもの。	130301	10	29
2010	12	～ 14	被災者は、フォークリフトでコンテナの上で畳を積む作業を行って いたところ、コンテナから1.12m下の地上へ後ろ向きに墜落し、入 院治療を続けていたが、約2週間後に死亡した。	170209	1	30～ 49
2010	12	～ 14	鋼線を酸洗いする工程において作業中、高さ80cmの転落防止柵は あったがこれを越えて作業し、硝酸亜鉛、磷酸亜鉛を主成分とする酸 (Ph1、温度80℃)の入った深さ1.6mの槽に頭から転落し た。救出時、他の作業員1名が手を負傷した。	11209	11	300 ～
2010	11	～ 15	客用立体駐車装置(4層、17台駐車可)の下から3層目端部のパ レットにおいて、当該パレットの横行チェーンの給油作業を行って いたところ、当該立体駐車装置下から2層目及び3層目のパレットがス ライドし、外に体を出して作業を行っていたため、当該パレットの昇 降モーターとチェーンカバーの間に首をはさまれ、死亡したものであ る。	11702	7	10～ 29
2010	11	～ 1	製紙工場の夜勤(4直3交替勤務)に従事していた被災労働者が、担 当していた部署(工場2階、ドライヤ、枠替え担当)からいなくなっ たので、同僚労働者等が工場内を捜索したところ、約2時間後、1階 パルパー(深さ約2mの廃紙溶解用の槽)内にて発見され、死亡が確 認された。パルパーのメンテナンス用扉が開いていたことから、ここ からパルパー内に転落したとみられる。	10601	1	100 ～ 299
2010	10	～ 9	自動洗濯機ラインの洗濯機の投入口と、自動投入装置のホッパーに被 災者が挟まれてた。自動投入時に衣類等が引っかかりエラーが発生し たため、一度ホッパーを下げて衣類等を被災者が投入していたとこ ろ、洗濯機を停止してもすべての機械が止まる機構になっておらず、 ホッパーが通常動作に戻ろうとしたため、被災者の上半身が挟まれた	11703	7	30～ 49

			ものと推定される。			
2010	8	9 ～ 10	貯蔵しているフライアッシュのサイロからの出が悪くなった。その原因となったサイロ壁面に付着したフライアッシュを落とすためにサイロ上部のハッチからサイロ内部に設置されている垂直タラップを降りたところ、転落してフライアッシュ内に埋没し、死亡した。	10909	1	30～ 49
2010	7	10 ～ 11	S R C造、地下1階、地上7階、塔屋1階の建物解体工事現場において、5階に設置された強力サポートの撤去作業に従事していた被災者が、梁下に設置された強力サポートを取り外すためハンマーを使って緩めていたところ、天井に取り付けられていた空調用のダクト内に大量のコンクリートガラが詰まっており、その重量に耐えられなくなったダクトが突然被災者の上に落下し、その下敷きになったもの。	30209	4	30～ 49
2010	7	14 ～ 15	被災者が休憩のために建屋の外に出て、作業場建屋のシャッター横に設置してある、水圧開放装置（停電等非常時に、消火栓の水圧を利用してシャッターを開放するための装置）の排水パイプ（建屋内から外壁に繋がっている）にもたれかかったところ、同装置の200V配電盤から消火栓排水パイプに漏電していたため感電した。病院に搬送されたが、収容先の病院で死亡が確認された。	80209	13	10～ 29
2010	6	9 ～ 10	インパクト式自動造型ラインにて鋳物製品を製造中、自動製造ラインに設置しているトランスファーカー付近で異常が発生したため、被災者が機械の運転を停止し、不具合箇所の点検を実施していた。点検作業はラインの下側で同僚1名と潜るような形で作業していたところ、他の作業者が確認や合図を行わないまま機械を作動させたため、動き出したトランスファーカーに頭部付近を挟まれた。なお、被災者と一緒に作業していた同僚は隙間に退避して無事だった。	11002	7	50～ 99
2010	5	16 ～ 17	工場内に設置されている高さ約7mの塗装ブース天井において清掃作業中、設備間の隙間を埋めるために取り付けられた鉄板を踏み抜き、地上へ落下し死亡した。	11403	1	100 ～ 299
			火力発電所の定期検工事中において、被災者ら3名はボイラー煙道に設			

2010	5	9 ～ 10	けられた脱硝装置内のステー（控え材）の交換作業中、ダンパー点検業者工事業者らが被災者らを退避させずに流量調整用ダンパーの作動試験を行ったため、ダンパーの直下にいた被災者がダンパーとステーの間に頭部を挟まれた。	30309	7	1～9
2010	5	11 ～ 12	クーリングタワーの扉を開けて、内部の水を検査のために採取する作業（半日作業）を行うのが事故当日の仕事だった。被災者は、クーリングタワーの底部にたまった水20cm（中央の深い個所は57cm）の中に、仰向けに倒れていたところを2日後に発見された。散水ブローホースが外れており、高さ120cmのC型鋼材の上で接続しようとし、頭部がファンに接触して水中に墜落し、溺死したとみられる。	170209	10	50～ 99
2010	3	10 ～ 11	工場機械室内に設置してあるの冷房加湿器（繊維材料を加湿する設備、幅310、高さ300、奥行210cm）を解体する作業中、脚立などを使用せずに、1.7mの高さにある機械フランジ部と建屋内壁に足を掛けて、無理な体勢でネジを外す工程を行っていた際に、足を滑らせて足を掛けていたフランジに前頭部を打ち、更に床面に後頭部を打ちつけ、頭部強打により死亡した。	10309	1	1～9
2010	1	1 ～ 2	チェスト（古紙原料タンク、約5m×約10m、深さ約4m）の開口部（約1m×約1m）からオーバーフローが発生したため、溢れた原料を当該開口部に入れる作業を行うため、開口部左側に敷いていたコンパネ板（0.3m×1.4m）を外し、中央部に敷いていた杉板（0.24m×2m）を渡っていたところ、転落防止措置がなく転落したとみられる。チェスト内部のスクリーンに巻き込まれた状態で発見された。死因は溺死。	10601	1	100 ～ 299
2009	7	22 ～ 23	被災者を含め事業場の作業員6人で災害の発生現場へ出張し捕鶏作業を行っていた。養鶏場には高さ約1.6mに扇風機が設置されており、扇風機が突然「ガラガラ」という音を発したことから、近くで作業をしていた作業員が扇風機のところへ行くと被災者が倒れており、救急車で	10101	8	100 ～ 299

			搬送した病院で死亡した。			
2009	3	11 ～ 12	施設内の冷暖房設備（アンモニアヒートポンプ）の定期点検を行っていた作業員7人が何らかの理由で漏出したガスを吸入し、うち1人が死亡し、3人が休業した。	11301	12	1～9
2009	11	16 ～ 17	土砂をふるい分ける設備の補修作業を行うため、高さ3mのふるい分け機の傾斜部に被災者が上り、ドラグ・ショベルでつり上げた約90kgの鋼材を手で受け取る際バランスを失い転落した。作業場所は、転落防止用としてトラクター・ショベルを据えていたが、作業足場の設置等の墜落防止措置が行われていなかったため、トラクター・ショベル設置外へ転落し被災した。	30199	1	10～ 29
2009	6	14 ～ 15	集じん機の配管洗浄作業中、被災者は配管内の同僚に洗浄ガンを渡すためジェットガンを配管内に入れようとしたところ、ジェットガンより高圧水が噴射し、被災した。	150103	6	1～9
2009	8	9 ～ 10	エアコンの室外機及びダクトの洗浄をするため、金属製の容器（20リットル缶）に入っている洗浄用フロン液を窒素ガスで圧送作業中、窒素ガスを送り込んだ当該容器が破裂し、当該容器を保持していた被災者に激突した。	30309	15	1～9
2009	10	10 ～ 11	砂取船は台船2台と機関室等で構成され、台船はH鋼とボルトでつながっており、この上に機関室があった。この船を分解するため、船体の傾きを調整する移動式クレーンでつり上げる力を垂直に加え、ボルト溶断作業を行っていたが、移動式クレーンの足下が不安定であったため、一時中断し、玉外ししたが、台船と機関室が分断して転覆し、機関室も台船の間に落下し、被災者は台船と機関室にはさまれた。	30302	7	10～ 29
2009	9	15 ～ 16	被災者は上水道の配水池タンク内に潜水し、タンク底部の清掃作業を行っていた。当日の作業が終了し、タンク上部の出入り口から出る際に送気マスクなど潜水具を外したところ、マスクが沈み底部の配水管に吸い込まれ、引っかかってしまった。そのために被災者が予備のマスクを装着して、再び潜水し吸い込まれたマスクを外していたとこ	170209	10	30～ 49

			ろ、被災者が配水管に引き込まれ、その際に送気マスクが外れてしまいおぼれた。			
2009	7	19 ～ 20	小学校の給食室において、食器洗浄機の付属品の取付作業を行うため、事業場から出張していた被災者2人が食器洗浄機の前で心肺停止状態で倒れているのを発見された。災害発生時、給食室は夏季の冷房効果を上げるために室内を密閉した状態でガス給湯器の排気口を屋外に出さずに使用していた。	80109	12	1～9
2009	7	19 ～ 20	小学校の給食室において、食器洗浄機の付属品の取付作業を行うため、事業場から出張していた被災者2人が食器洗浄機の前で心肺停止状態で倒れているのを発見された。災害発生時、給食室は夏季の冷房効果を上げるために室内を密閉した状態でガス給湯器の排気口を屋外に出さずに使用していた。	80209	12	30～ 49
2009	2	11 ～ 12	事業場敷地内にある整備工場において、資材置き場として使用している3段積みラックの3段目に整備作業に使用する不凍液などを片付ける作業を行っていた。3段目床の位置までフォークリフトを使用して荷を持ち上げ、移動はしごで3段目の作業床もしくはパレット位置（高さ3.5m）まで登って作業を行っていたところ、地上コンクリート床に墜落した。	40301	1	50～ 99
2009	1	14 ～ 15	中華料理店の厨房において、換気扇の掃除をしようと高さ72cmのガス台に左足をかけたところ、転落し身体をガス台にぶつけ、そのまま仰向けにコンクリートの床上に倒れた。被災者は午後5時ころ帰宅。翌朝自宅で具合が悪くなり、救急車で搬送されたが、同日死亡した。	140201	1	1～9
2009	11	9 ～ 10	雑居ビルの2階居酒屋の厨房の焼き鳥の焼き場付近から出火、店内に燃え広がって、火災で発生したガスを吸入し死亡した。ほかに、客2人が死亡、12人が被災した。	140209	16	1～9
2009	11	9 ～ 10	雑居ビルの2階居酒屋の厨房の焼き鳥の焼き場付近から出火、店内に燃え広がって、火災で発生したガスを吸入し死亡した。ほかに、客2人が死亡、12人が被災した。	140209	16	1～9

2009	11	12 ～ 13	事業場（建設業）に付属する寄宿舍（2階建、プレハブ製）で夜間、火災が発生し、2階部分の2部屋（約24平方m）が全焼、その部屋で就寝中であった作業員1名が逃げ遅れて死亡した。	30209	16	30～ 49
2009	9	16 ～ 17	夕方になり、被災者が見当たらないので捜していたところ、骨材ストックヤードの中の砂をためておくサイロ内の砂の中で窒息していた。同サイロ内でスコップが発見され、同サイロ内のすり鉢状に固まっている砂をスコップで崩す作業をしていた。	10901	1	30～ 49
2009	5	17 ～ 18	娯楽施設の温泉槽の清掃及びメンテナンス工事現場において被災者は、ポンプ室ピット内で温泉槽の給湯ポンプ圧力スイッチ（交流200V）の修理のため制御盤のマイナス端子を外してから絶縁ドライバーを使用して圧力スイッチを取り外す作業を行っている際、配線が邪魔になるため除けようとしたところ端子に触れ感電した。	30309	13	50～ 99
2009	11	12 ～ 13	法面対策の工事のため、打ち込んだアンカーの緊張、定着作業を行っていたところ、アンカーの緊張用に取り付けた油圧ジャッキがアンカーから外れ、約8m下で油圧ジャッキの油圧調整を行っていた被災者に当たった。	30199	4	10～ 29
2008	5	16 ～ 17	被災者は他の作業員と2名で吹き付け工事に使用したコンプレッサー（重量2.85t）をトラックの荷台（最大積載量6t）に積み込む作業を行っていた。被災者がトラックの荷台の上で巻き上げウインチを操作してコンプレッサーを積み込んでいたところ、操作ミスによりウインチの巻き上げ速度が急に上がったため、被災者がコンプレッサーと運転席後部の間にはさまれて死亡した。	40409	7	50～ 99
2008	7	14 ～ 15	製造工場で被災者がこんにやく殺菌作業中に熱湯の入ったステンレス製タンク（内枠寸法：縦1m、横2m、深さ75cm）の温度調節のため、レバーを解除しようとしたところ、誤って同タンク内に転落して死亡した。	10109	11	1～9
		8	型枠から側溝（U字溝）を脱型する作業中に鋼製の型枠材である妻板が			30～

2008	6	～ 9	倒れたため激突されて死亡した。	10901	6	49
2008	5	14 ～ 15	廃屋の工場内において、つり下げて設置されている鉄製収納箱（幅約2m、奥行き約10m、深さ約1.5m）を解体して搬出する作業を作業員3名で行っていた。鉄製収納箱を下ろすために作業員1名が同収納箱をつついていたL字鋼を切断したところ、落下した同収納箱の先端が、近くで散水の作業を行っていた被災者に激突して収納箱と建物の壁にはさまれ死亡した。	30302	4	1～9
2008	4	16 ～ 17	歯磨き用の歯磨き粉を製造する混合装置の洗浄作業のために装置に水を注入していた。その際、装置の空気抜き部分が密閉されていたため、混合装置内に圧力がかかり、材料投入口の直径20cmの閉じ蓋が飛んで作業していた被災者を直撃して死亡した。	10899	6	300～
2008	11	～ 16	廃車のシュレッダーの集じん機清掃作業に従事していた作業員が、集じん機の点検足場上で倒れて死亡しているのを発見された。発見時、集じん機のじん芥を掻き出す装置（チェーンにL型鋼が取り付けられモーターで駆動）が動いており、L型鋼と集じん機本体との間にはさまれて被災した。	80109	7	50～ 99
2008	12	14 ～ 15	金型保管用の3段スライド式の棚に置かれていた金型の整理作業中に棚が転倒して金型に激突された。	10805	5	30～ 49
2008	12	10 ～ 11	被災者が同僚2人とバケットエレベーター（使用済の鋳物砂などをバケットで搬送する）の駆動部分のギア等の取替作業を行っていた。ギアに付着しているオイルなどでプーリーヌキ（ギアを固定して外す工具）が滑るため、被災者が手すりとなりの排気ダクトに足をかけて、バールでプーリーヌキを固定していたところ、地面に転落し死亡した。駆動ギア付近が非常に狭いため手すりの外に出て、バールで固定していた。	11002	1	30～ 49
			鉄工所の工場内において、製作中の機械装置（ステンレス製、長さ			

2008	8	17 ～ 18	4.9m、幅1.5m、厚さ0.5m、重量約6t) 内部の溶接作業中（被災者は、上半身を機械装置の中にいれ作業していた）、機械装置を45度くらいに傾げるために油圧ジャッキ装置に立てかけてチェーンブロック（1t用）で固定していたが、そのチェーンが切れたため、立てかけていた油圧ジャッキ装置が移動して機械装置が倒れはさまれて死亡した。	11209	5	1～9
2008	1	12 ～ 13	被災者が酸洗設備全体を覆うフードの上部に設けられたエアシリンダーにより開閉するフード天井扉を点検していたところ、当該フード天井扉が閉動作をしたため、被災者が酸洗設備全体を覆うフードとフード天井扉のフレームにはさまれて死亡した。	11001	7	100 ～ 299
2008	9	14 ～ 15	被災者が本船から砂糖の原糖を投入するホッパーの目づまりの清掃をする際、ホッパー手すりの中棧に足を掛けてホッパー内に入ろうとしたところ、手すりの外側約3.67m下の岸壁に墜落した。さらに、そのはずみで岸壁に取り付けられている船のゴムバッファ（緩衝材）上に転落した。	50202	1	1～9
2008	6	15 ～ 16	マンション新築工事の仮設引込線設置工事のため、現場前の電柱に登り、高さ7mの足場ボルトに足をかけ金具を入れた布袋を地上からつり上げようとした際に墜落した。	30203	1	1～9
2008	9	8 ～ 9	食材の納入に来た業者が、店内厨房の床に前かがみに座り込んだ状態の被災者を発見した。被災者は、前日営業終了後、厨房の業務用ガスコンロ（LPガス）に寸胴なべを載せ、ひとりで翌日の営業で使用するラーメンスープの調理を行っていた。発見時、店はほぼ締め切りで厨房の排気ファンは停止していて、コンロは全開で点火状態であった。	140201	12	1～9
2008	1	12 ～ 13	再生防湿塗装紙を製造する塗装機の清掃中、塗装された紙を乾燥させるドライヤーと呼ばれる設備(W210×D215×H112cm)の上部（重さ2t以上）の片側をエアシリンダーで上昇させ、落下防止の鋼製安全棒を取り付けた後、ドライヤー内部のローラーにこびりついた塗装液をヘラではぎ落とす作業を行っていたところ、上部分が降下しはさまれて死亡した。	10602	7	30～ 49

2008	7	1 ～ 2	元請事業場の建設業付属寄宿舍の食堂のコンロ付近から出火して寄宿舍が全焼し、2名が死亡、1名が火傷を負った。	30301	16	1～9
2008	7	1 ～ 2	元請事業場の建設業付属寄宿舍の食堂のコンロ付近から出火して寄宿舍が全焼し、2名が死亡、1名が火傷を負った。	30301	16	1～9
2008	2	3 ～ 4	事業場の社員寮の一室から出火して社員寮が全焼した。焼け跡から1名の遺体が発見された。	30309	16	100 ～ 299
2008	2	20 ～ 21	宿直作業において、場内の見回り、処理槽への薬液注入作業をしていた被災者が行方不明となり場内を捜したところ、尿の処理槽の中から死亡して発見された。処理施設内を移動中に処理槽内へ転落した。	70101	10	10～ 29
2008	1	13 ～ 14	地ビール製造工場内でろ過器の部品洗浄作業を行っていたところ、隣室に設置されていたビール貯蔵用タンク（外径約1.3m、高さ約2.5m、内容積約3,000リットル）が破裂し、タンク本体が壁を突き破って作業場所に飛び込んできたため、タンクと部品洗浄用の水槽の間にはさまれた。	10105	15	1～9
2008	1	8 ～ 9	被災者は、使用者の居宅敷地内に設置されたユニットハウスに住み込み、牛の飼育作業に従事していた。災害発生日は、朝の飼育作業を午前8時前頃に終え、ユニットハウスに戻って休憩していたところ、室内に設置されていた石油ストーブの火が被災者の着衣に燃え移り被災した。	70101	16	1～9
2007	6	15 ～ 16	被災者が工場内の養生室において、コンクリートを打設した鋼製型枠の架台上に乗り、生コンの表面をコテで均す作業を行っていたところ、被災者が乗っていた型枠が傾き、落ちたため、被災者が当該型枠と養生室のコンクリート壁にはさまれ死亡した。	10901	5	10～ 29
		3	日本酒の品質管理で、醪（もろみ）の発酵状況確認のため、タンクに			10～

2007	3 4	～	移動はしごを立て掛けタンク上部のマンホールから柄杓で漏斗（ろうと）に試料（醜）を採取するとき、タンクの内部に墜落した。	10105	10	29
2007	10	13 ～ 14	工場テスト場において、ボール捕集機（1300kg）より、テストフランジ（1600kg）を外すためにエアインパクトレンチで締結されたナットを緩めていたところ、テストフランジがボール捕集機より重く、バランスを崩して倒れ、床面とボール捕集機との間にはさまれた。	11209	5	30～ 49
2007	2	22 ～ 23	被災者は、浸炭処理後、鋼球を炉の前の水槽内に設けられている球受けカゴに入れようとし、作業床と同じ位置にある水槽の扉を開けようとした。扉は観音開きになっており、一方の扉を被災者が開き、もう片方を同僚の者が開けていたことに被災者は気付かず、その扉の上に足をかけてしまい、水槽内に転落した。水槽は、炉の前方にあるため、水温は高温になっていた。	11209	11	30～ 49
2007	9	9 ～ 10	グラインダーで金属加工を行っていた被災者が、壁に設置されていた換気扇の羽根に接触した。	11209	6	1～9
2007	11	15 ～ 16	ボックスカルバート製造用型枠の整備作業中、縦3.0m、横6.1mの妻板1枚を2名で引出したところ、妻板の抜け落ちを防止するためのストッパーがされていなかったため、当該妻板が抜け落ちて倒れ、2名が下敷きとなり、1名が死亡した。	10901	5	30～ 49
2007	4	13 ～ 14	被災者を含む製造工4名で、専用の洗浄機を用いてしょうゆ熟成タンクの洗浄作業中、軌条から懸垂されていた同洗浄機が、軌条の継ぎ目のズレていた部分から脱落し、傍にいた被災者が同洗浄機の下敷きとなった。	10109	4	50～ 99
2007	2	16 ～	被災者は、廃棄物である紙パックの塊を機械で自動的にコンテナボックスへ排出する機械の排出口側に紙パックが詰まっていたために、長さ約1.8mの木製の棒状の先に三角形の金属片が付いた用具を使ってかき出そうと、コンテナボックスの上（ふち）に載って作業をして	11709	1	100 ～

		17	いたところ、足を滑らせて約1.53m下のコンクリート地面へ墜落した。			299
2007	8	13 ～ 14	被災者がゴルフ場のホールの芝生を刈るために、敷地内の下り坂道路（幅員8m）を自走式芝刈機で移動していたところ、直角カーブを直進して柵を突き破り、約20m下の道路に芝刈機ごと転落した。同僚作業者が道路上に放置されている芝刈機と崖の中腹に引っかかっている被災者を発見した。	140301	1	30～ 49
2007	5	11 ～ 12	岸壁に係留した小型曳船2隻の船底に取り付けられている電蝕防止亜鉛板交換のため、潜水士3名で船底に付着した貝類の除去作業を行っていた。その後、潜水士2名が休憩のため陸上に上がったがもう1名が上がってこないで、潜水して捜し始め、当該岸壁に隣接している第1ドックのドックゲート取水口に吸い込まれている被災者が発見された。	30199	7	1～9
2007	1	12 ～ 13	建物に付属している電動シャッターにはさまれている被災者を出社してきた他の作業者が発見し、病院に搬送されたが死亡した。	80109	7	50～ 99
2006	12	11 ～ 12	ゴミ焼却場の集じん器の点検作業において、被災者が集じん器内のスクレーパーと点検口（縦49cm、横49.5cm）の端に挟まれているのが発見された。スクレーパーはL字型の金属製、集じん器のホッパー内壁に設けられ、角度90度で回転往復運動し壁面に付着した灰を掻き落とすものである。	150103	7	10～ 29
2006	12	6 ～ 7	ハシゴリフトに昇り、天井に取り付けてある換気扇の清掃作業をしていたところ、4.15mの作業床から墜落した。	150101	1	10～ 29
2006	10	13 ～ 14	製品の仕分切出用装置の油圧シリンダー取替作業中、稼動スイッチを押したため昇降用エアシリンダーが稼動し、それと基礎の間にはさまれた。	11001	7	1～9

2006	10	10 ～ 11	スラグ置き場において、移動式篩分機を修理すべく所定の位置に移動させようと無線操作で操作したところ、停止せずに暴走したため、あわてて後部操作盤にある非常停止スイッチを押そうと機械の後部に回ったところ当該機械と停車中の散水車の間に挟まれた。	11001	7	300 ～
2006	7	19 ～ 20	翌日朝になっても勤務先から被災者が家に戻らないので、家族が電話をしたがつながらないため、勤務先に行ってみると被災者が倒れている。	140201	12	1～9
2006	9	8 ～ 9	調理場で、てんぷら油が入っている鍋が高温なり、燃え上がった。被災者は、鍋をコンロから床に降ろし、消火器で消火作業をしたとき、火傷した。	170209	16	1～9
2006	9	13 ～ 14	試作品製造のため既存のタンク（直径2.5m高さ3m、容量10m ³ ）に新たな配管とセンサーを取り付けるため、労働者2名が当該タンクに入り作業していたところ、急にタンク内の攪拌棒が回転を始め、1人が死亡し、1名が負傷した。	30302	7	10～ 29
2006	8	14 ～ 15	マンション代行管理の勤務についていた被災者が、機械式駐車場のチェーンが外れたピットの下に墜落しているところを発見された。	80409	1	1000 ～ 9999
2006	8	20 ～ 21	打ち上げ花火の着火作業に従事していた被災者が、打ち上がった花火の円筒周辺の火の粉を払っていたところ、突然不発花火が打ち上がり、被災者に当たった。	11709	6	10～ 29
2006	8	21 ～ 22	ペレットクーラー内のレベル計（流量を調整）に異常が発生したので、被災者と外1の2名で同日の午後8時30分頃にはしごを掛けて補修作業を開始した。補修作業を数回繰り返した後被災者が、はしごから下のふるい（約3m）に墜落した。	10109	13	50～ 99
2006	6	14 ～ 15	シールド工事現場において、シールド工事で排出された汚泥を処理する地上の処理棟内で、被災者は雑排水槽の上部にある鉄板（大きさ60センチ×96センチ、高さ（床から205センチ、水槽底から197センチ））上で、排水パイプの盛替作業を行っていたところ、雑排	30102	1	1～9

			水槽（事故当時は水深1メートル）の中に転落した。			
2006	5	10 ～ 11	工場内にて、制作した産業機械（以下、ラミネーター）と、その制御盤が出荷を待っている他の、産業機械の出荷の邪魔になるため入替えをしようと被災者他2名でラミネーターを手押で移動したところ、ラミネーターと制御盤の間で移動中の被災者の背後に制御盤（480Kg）が倒れてきて、ラミネーターの鉄の土台と制御盤の間に被災者が挟まれた。ラミネーターと制御盤は転倒防止のため上部がナイロンスリングで結ばれていた	11301	5	1～9
2006	4	11 ～ 12	重量約20tの定量フィーダ（汚泥の計量機）の解体作業において、定量フィーダは高さ5.5mの位置に設置されていたが、その固定箇所を前日及び当日の作業で溶断していたにもかかわらず、被災者は、定量フィーダ外側で定量フィーダの側壁をガス溶断していたため、落下してきた定量フィーダと作業床として使用していた鉄骨梁に挟まれた。	30302	4	10～ 29
2006	2	16 ～ 17	4階建マンションの防水工事を、被災者は4階ベランダで、もう一人の作業員は屋上で作業をしていたところ、4階ベランダの物置が倒れる音がしたので、屋上の作業員が確認したところ、13.37m下の隣地住宅の庭に被災者が墜落していた。	30201	1	10～ 29
2005	2	9 ～ 10	電気集じん機の上部配管の保温材の補修のため、当該集じん機のFRP製の天板の上に乗ったところ、これを踏み抜き、1.5m下の電極板のつり枠の上に墜落した。	30309	1	1～9
2005	2	10 ～ 11	架設ガーダー上に載せた橋桁を橋台に架設する作業中、架設用設備が倒れ、門構梁上の台車でジャッキ操作を行っていた被災者が地面に放り出された。	30105	1	30～ 49
2005	7	11 ～ 12	空気分離装置に充填していた粉末状の断熱材を吸引、除去する作業中、断熱材に埋まった。	30309	5	1～9

2005	12	14 ～ 15	キュポラ用集じん機において、集じんした粉じんを排出口まで搬送するスクリーコンベヤーが故障したため、点検口から集じん機内に入り、機内の堆積粉じんの掻出し作業を行っていたところ、機内に滞留していた一酸化炭素を吸入した。	170101	12	1～9
2005	6	9 ～ 10	遊園地の観覧車の始業点検を行っていたとき、点検通路でバランスを崩し、搬器回転用レールと従動輪に巻き込まれた。	140302	7	50～ 99
2005	9	15 ～ 16	立体駐車場天井の熱感知器の点検作業中、操作室にいた作業者が誤って操作してしまい、車を載せるパレットに挟まれた。	170209	7	10～ 29
2005	12	11 ～ 12	ダクト内のバイパスダンパー内で、パッキンの漏れ等の確認をしていた時、ダンパーが閉まり、ダンパーとダクトとの間に挟まれた。	30302	7	30～ 49
2005	8	10 ～ 11	金型をクレーンのフックに玉掛けするためにラックの棚を引き出したところ、ラックのアンカーボルトのナットが外されていたためラックがバランスを崩して倒れ、挟まれた。	10805	5	1～9
2005	6	15 ～ 16	コンクリート2次製品であるU字側溝を製造するために型枠の組立て作業を行っていた際、型枠のうち外側型枠の開き止めのために設けてあったストッパー1個が破壊して外れたために支えを失った当該外側型枠が外に向かって倒れ、同外側型枠の側にいた被災者が下敷きとなった。	10901	5	10～ 29
2005	11	11 ～ 12	もろみが入った仕込みタンク（直径2m、高さ1.8m）の蓋開口部（直径75cm）から、タンク内に誤って転落した。	10105	10	10～ 29
2005	3	14 ～ 15	サイロの塗装工事において、旧塗装のケレン作業をブランコを使用して行っていたところサイロの下に転落した。	30209	1	1～9

2005	11	9 ～ 10	耐火物補修作業場において、可動式ダクトの位置検出リミットスイッチの調整作業を行う準備をしていたところ、当該可動式ダクトが不意に動き、ダクトの架台内部に入った被災者が挟まれた。	10905	7	100 ～ 299
2005	7	17 ～ 18	フォークリフトを使用して産業廃棄物を強酸が満たされたピット（水深1.2m）に投入する作業中、被災者がフォークリフトから降りたところピット内に転落した。	150102	1	1～9
2005	11	15 ～ 16	歯車製造工程の熱処理工程において使用する温水洗浄機のメンテナンス作業中、70℃の湯が溜まっていた洗浄機内部に転落した。	11209	1	100 ～ 299
2005	7	6 ～ 7	うどん製造工場の麺殺菌工程で、装置を稼動したまま、機械の脇から身を乗り出し、かご内のうどんを整列させていたところ、かごを移動させるためのチェーンとスプロケットに巻き込まれた。	10109	7	100 ～ 299
2005	6	18 ～ 19	製油所内において電気集じん機の通電テストを実施したところ、集じん機の内部で清掃作業をしていた下請会社の作業者が感電した。	30209	13	30～ 49
2005	1	15 ～ 16	木造建屋の解体工事において、立てた状態で仮置きされた地震体験用振動架台（重さ800kg）の横で、同架台のモーターに接続されていたケーブルを切断する作業を被災者が単独で行っていたが、同架台が突然倒れて下敷きとなった。	30199	5	30～ 49
2004	5	8 ～ 9	冷凍保存庫の電動式ドア（引き戸式）を半開きの状態で、被災者が庫外へ商品を持ち出す作業を行っていた際に、他の作業者がドアをさらに開こうとドアのボタンを押したところ、ドアが閉まり、被災者が挟まれた。	10109	7	1～9
2004	3	15 ～ 16	造雪機の製氷機の修理を行うため、被災者は製氷機内に入り、他1名は製氷機制御盤の位置で、製氷機内にいる被災者の指示で製氷機運転の入り、切りを行っていた時、被災者が製氷機ローターの羽部と下部支持アームに挟まれた。	170209	7	30～ 49

2004	10	8 ～ 9	ドックの渠底の掃除を開始する前にドック側面の移動式足場の走行レールに平行して設けられている水パイプのバルブを開けるため、移動式足場の下部に入っていたところ、移動式足場が動き出し、水パイプと移動式足場下部ボックスに挟まれた。	11501	7	10～ 29
2004	10	10 ～ 11	台風で、流されたカキ養殖用いかだの下に入り込んだ浮き灯台から、カキ養殖用いかだを引き離す作業を、当該養殖用いかだ上で行っていた被災者が行方不明になり、翌日海中で溺死しているのが発見された。	70209	10	1～9
2004	10	14 ～ 15	船舶エンジン用台座（重量1.5t）を、油圧式テーブルリフター2基で支持して1.5mの高さに上昇させ、その台座の下で溶接部の検査を行っていたところ、片方のテーブルリフターから脱落した台座の下敷きになった。	11209	4	10～ 29
2004	8	13 ～ 14	抜油・予備洗浄装置を完成させ、検査後、納品のため、当該装置を天井クレーンで解体作業中、ワイヤロープで転倒防止措置を講じていた門型台車フレーム（約4 t）が倒れ、門型台車フレームに接触したつり荷（鋼材約300kg）が作業に従事していた被災者に激突した。	11001	4	300 ～
2004	2	9 ～ 10	改修空調工事において、設置した冷温水配管のエアートスト終了後、配管端部のキャップ（ストラブカップリング）の取り外し作業をしていたところ、配管内の残圧でキャップが飛び、正面にいた被災者が吹き飛ばされ、3.4m下の地面に墜落した。	170209	4	10～ 29
2004	7	19 ～ 20	製品置場にて高さ約6mの既設の塩ビ管の上から電気配線中継ボックスの蓋を閉めようとしていた被災者が、足を滑らせ墜落した。	30301	1	1～9
2004	1	16 ～ 17	冷水が入ったタンクの中に、タンク上部（木製の蓋でタンク上部の半分は覆われている）から転落し死亡した。	10105	10	10～ 29
		13	廃品ダンボール箱回収用の金網かご（1.7×1.7×高さ1.8m）が一杯になったので、かごの中のダンボール（全て解体済み）の上に上がり、			10～

2004	11	～ 14	体重でダンボールを圧縮しようとしたところ、かごの外の地上に墜落し、隣の整理棚に激突した。	11502	1	29
2004	2	～ 15	大型冷蔵庫からパレットを取ろうとした際、動力式扉に挟まれた。	10101	7	1～9
2004	2	21 ～ 22	油圧伸縮作業台を使用して天井付近にあるバー（鉄パイプ）にカーテンを取り付ける作業で、1つ目のカーテンを取り付け後、油圧伸縮作業台に被災者が乗ったまま、別の作業者が油圧伸縮作業台を人力で移動させたところ、車輪がダンスパネル（厚さ2.5cm）に乗り上げて油圧伸縮作業台が転倒し、作業台上にいた被災者が、3.65m下の床に墜落した。	140101	1	30～ 49
2004	10	9 ～ 10	シャッターの点検修理作業中、シャッターの下に入り引っ掛かっていた木の棒を取り除いたところ、突然シャッターが下がり、コンクリート床とシャッターの部分に挟まれた。	30202	7	1～9
2004	8	14 ～ 15	ビルの消防検査に立ち会っていた被災者が、8階のベランダに設置された避難器具（体にベルトを装着して地上にゆっくりと下降する緩降機と呼ばれるもの）の下降試験をするため、ベルトを装着してベランダの外に身を乗り出したところ、1階のコンクリート屋根上に転落した。	150101	1	10～ 29
2004	4	14 ～ 15	フィルム現像の溶液タンクに落ちたフィルムを取ろうとした被災者が、溶液を抜いたタンク内に逆さまにはさまり、抜けなくなった。	170209	10	30～ 49
2004	4	13 ～ 14	かばん縫製作業中に材料を天井に引っ掛けるため、ミシンの台の上に乗ったところ、滑って床に転落した。	10807	1	10～ 29
2004	1	16 ～ 17	下水道工事に係るボックスカルバートの埋設作業で、地面に重ねてあった長さ3m幅1.5m厚さ0.1m重さ400kgの金属製の土止め支保工のパネルが深さ3.66mの溝の底で作業していた被災者に落下した。	30110	4	1～9

2004	1	10 ～ 11	特殊焼却施設内にある消石灰タンクが詰まり焼却運転中に頻繁に閉塞するため、タンクの消石灰を全て抜き取るためにタンク内部に入り、固まった消石灰を棒で押していたところ、消石灰に埋没した。	150102	1	50～ 99
2004	2	16 ～ 17	シャッターの上扉（上下スライド式で、扉は波形鉄板とアングルにより製作されている。下扉は1tの電動チェーンブロックで昇降させており、上扉は下扉の下端アングル部分に引っ掛けて昇降させる）がレールのストッパーを突き破り落下し被災者を直撃した。	170209	4	50～ 99
2003	12	10 ～ 11	合材所内のアスファルト貯蔵タンク（高さ約10m、直径約3m、160度～165℃程度で保温する）に原料を圧入する配管が詰まったため、配管を取り外す作業をタンク天蓋上で行っていたときに、ボルトをガス溶断したためアスファルトガスに引火しタンクが爆発して天蓋がまくれ上がり地上に転落した。	11301	14	1～9
2003	12	9 ～ 10	ボックスカルバート（重さ2.2t）を型枠から脱型しているときに、ボックスカルバートを支えていた木製型枠が挫屈したため、近接して停止していたフォークリフトのフォークとボックスカルバートとの間にはさまれた。	10901	5	30～ 49
2003	12	16 ～ 17	老人ホームにおいて、清掃作業のため1人で浴室に入ってしまったが浴室から音がしないので寮母がのぞいたところ、水の入った浴槽の中にうつ伏せに浮かび舌をかんでいた。（被災者は癲癇の持病をもっていた）	130201	10	10～ 29
2003	11	8 ～ 9	駐車場事務所で、採暖のため石油ストーブに点火したときに火災となり、異常燃焼によって発生した煙および一酸化炭素等の有害ガスを吸入して意識を失い焼死した。	80409	16	1～9
2003	11	2 ～ 3	スーパーマーケットに配送品を納入するため、シャッター（質量800kg）を上昇させて体を店内に入れたときに、シャッターが何らかの原因で落下し、頸部をシャッターと床との間にはさまれた。	40301	4	50～ 99
2003	10	8 ～	1500tプレスから取り外されていた金型の清掃作業（油拭き取り）を一人で進めていたときに、金型に付帯する加工品送給装置（フィード	11502	4	50～

		9	バー、0.35t) が脱落してきて顔面に激突した。			99
2003	10	16 ～ 17	工場の配送センター改修工事において、鋼鉄製の自動ラックの枠に乗ってラックの解体作業中に自分が乗っているラックのボルトを外したため、ラックが壊れて約3m下に転落した。	30203	1	30～ 49
2003	8	9 ～ 10	国内で製造した真空蒸着装置の据付納品で台湾の客先工場に出張し、蒸着装置制御盤内のトランス1次側の接続端子切替作業を行っていたときに、左手が充電部分（電圧200V）のブレーカー端子に触れ感電した。	11301	13	100 ～ 299
2003	8	10 ～ 11	ビル屋上に設置されている空調熱源設備の点検（清掃・設備を含む）中に、ビル所有社の社員が冷房のスイッチを入れたため冷却用のファンが回りだして首をはさまれた。	170209	7	1～9
2003	7	22 ～ 23	石灰製品の製造中に、原料を供給するサービスタンクに詰まりが生じたので復旧作業をしていたところ、何らかの原因で集じん機が爆発し、作業をしていた2名のうち1名が死亡した。	20309	14	30～ 49
2003	6	11 ～ 12	製品をショットブラストで研磨するため、ショットブラストを起動させたのち研磨済み製品の搬出用ベルトコンベヤに上がってショットブラスト内をのぞき込んでいたときに、上昇してきたバケットローターとショットブラスト本体との間に胴体をはさまれた。	11502	7	30～ 49
2003	6	4 ～ 5	小型巻き網船（4.9t）での操業で、魚の引き上げを行うため船体のサイドローラーで網をたぐっていたときに、漁船の揚網用サイドローラーに左腕を巻き込まれた。	70201	7	1～9
2003	6	16 ～ 17	もろみ中継タンクの洗浄作業を行う前に、タンク内をのぞいたときに深さ3.4mのタンク内に墜落し、残留していたもろみを吸入して窒息死した。	10105	1	50～ 99
2003	5	9 ～	石灰石の採掘切羽現場で、坑道内に設けられた採掘作業員詰所（休憩室）内の乾燥室内から出火した。詰所にいた2名が初期消火を行ったがおさまらないので、切羽にいた9名の応援を得て消火活動を行っていた	20309	16	10～ 29

		10	ところ、急に煙が坑道内にも充満し逃げ遅れた3名が死亡した。			
2003	5	9 ～ 10	石灰石の採掘切羽現場で、坑道内に設けられた採掘作業員詰所（休憩室）内の乾燥室内から出火した。詰所にいた2名が初期消火を行ったがおさまらないので、切羽にいた9名の応援を得て消火活動を行っていたところ、急に煙が坑道内にも充満し逃げ遅れた3名が死亡した。	20309	16	10～ 29
2003	5	9 ～ 10	石灰石の採掘切羽現場で、坑道内に設けられた採掘作業員詰所（休憩室）内の乾燥室内から出火した。詰所にいた2名が初期消火を行ったがおさまらないので、切羽にいた9名の応援を得て消火活動を行っていたところ、急に煙が坑道内にも充満し逃げ遅れた3名が死亡した。	20309	16	10～ 29
2003	4	0 ～ 1	砂利採取プラントの砂利の洗浄水を処理する沈殿槽において、点検台から検査用器具（2mの鉄棒）を使用して沈殿槽の底にたまった汚泥の状態等の検査中に、水深約2.3mの沈殿槽内に転落し溺死した。	20202	10	30～ 49
2003	4	9 ～ 10	アスファルト製造工場で、アスファルトを製造し出荷するまで溜めておく大型サイロ5基のうち2基のサイロのホッパー出口付近にアスファルトがこびりついて出が悪くなっていたので、ホッパーのゲートを機械的に“開”状態にしてピックでアスファルトをはつっていたときに、ゲートが突然閉まって頸部をはさまれた。	10804	7	30～ 49
2003	3	15 ～ 16	コンテナクレーンのつり具の試運転および調整作業で、下に潜り込んで稼働状況を確認していたときに、つり具の固定フレームとツインボックスのプレートの間で頭をはさまれた。	11501	7	1000 ～ 9999
2003	3	16 ～ 17	配管の断熱材の取付作業中に、約5m下の床上に墜落した。	30302	1	1～9
2003	3	11 ～ 12	バッチ炉のフード取付け作業で、2名の作業員が水平バランスを調整するためフードの上に乗ってターンパックルを調整していたところ、屋根の梁（みぞ型鋼）にボルト止めしたつり具の1本が上端部より外れてフードが傾き、2名がコンクリート床面に落下したが、その直後に残り	30302	1	1～9

			の3本のつり具も外れてフードが落下し、一名の頭部を直撃した。			
2003	1	11 ～ 12	電磁鋼板工場で、冷間圧延機の運転業務に従事していた者が帰ってこないで、同僚と上司がオイルセラー内を捜索したところ、60度に加熱した冷間圧延機用潤滑油を貯蔵するオイルタンク内で死亡しているのを発見した。	11001	10	1000 ～ 9999
2003	1	13 ～ 14	機械式地下駐車場の消火設備を点検中、消火設備が作動したために酸素欠乏状態になった。	150101	12	10～ 29
2002	12	12 ～ 13	工場の焼却炉の燃焼ガス冷却塔の清掃で、冷却塔内部の堆積粉じんを崩すため、冷却塔の清掃扉から身体を入れて棒で突いたところ、堆積粉じんが崩壊落下し生き埋めになった。	170209	5	10～ 29
2002	12	13 ～ 14	ゲームセンターの2階からゲーム機を搬出しているときに、雨が降っていたため足を滑らせて転落した。	40301	1	10～ 29
2002	12	14 ～ 15	コークス炉解体物の仮置場において、コークスを炉から運搬車に移すガイド車を解体するためガイド車のドアリフター架台（重さ18t）のロックピンをガス溶接機で切断したところ、リフター回転シリンダーが開いてリフター架台が直近で作業していた者の方に倒れたため、リフター架台端部と地面との間に挟まれた。	30302	5	10～ 29
2002	12	16 ～ 17	冷却庫修理のため冷却庫の上に登り、スパイラルネット（ゆで麺を冷却するための螺旋状のコンベア）の補修作業中に、4.9m下のコンクリート床に転落した。	11301	1	10～ 29
2002	10	14 ～ 15	マンション屋上の手すりにロープを結び窓拭き用ブランコを用いて窓拭き作業中、手すりに結んでいたロープがほどけて高さ約16.05mのところから墜落した。	150101	1	10～ 29
2002	10	18	営業先から帰社して冷凍室内に保管されている冷凍食品を確認しようとして、冷凍室扉に挟まれた。	170209	7	10～ 29

		19			
2002	10	10 ～ 11	家庭用小型ガス給湯機の出荷検査ラインの給湯機検査装置のうち規定の検査水圧にまで上らなくなったので、ターンテーブルの下に入って検査装置の制御装置用電磁弁付属ボルトを交換中、回転するターンテーブルの枠とターンテーブルの架台の枠との間に頭部を挟まれた。	11301	7 300 ～
2002	9	10 ～ 11	病室天井に設置された冷暖房機のモーターバルブを交換する作業で、通電したまま切断した配線に圧着ペンチでコネクターを取付ようとして感電した。	130101	13 300 ～
2002	9	14 ～ 15	醤油製造工場で、85℃程度まで加熱殺菌した醤油を貯蔵室のタンク（高さ1.79m、直径1.6m）に投入したのち、タンク上部に設置してある木製足場（幅68cm）に上がり蓋をしようとしたときに、タンク内に転落し全身（頭部を除く）火傷となった。	10109	11 10～ 29
2002	7	18 ～ 19	翌日出荷する冷蔵庫内の荷の確認作業を行っていたときに、冷蔵庫の入口の鋼製電動扉（高さ2m、幅2m）が閉まったため、胴体を冷蔵庫の外側、頭部を冷蔵庫の内側の状態で挟まれた。	80109	7 10～ 29
2002	6	11 ～ 12	トラックに使用した防水シートを乾かすため、倉庫内の棚（高さ3m）に昇って作業中に墜落した。	80209	1 1～9
2002	7	10 ～ 11	国道に設置されている遮断機の定期点検中、遮断棒が降下したところへ大型トラックの屋根が接触したため断棒が振れて交通整理員に当たった。	170201	6 50～ 99
2002	7	13 ～ 14	転炉工場の解体工事において、予熱装置の切り離しのためガス溶断作業中に切断していた装置が作業床へ倒れ、近くに居た者が下敷きになった。	11001	5 300 ～
2002	6	9 ～ 10	製鋼転炉の集塵機のバグフィルターが損傷したため乾燥設備を停止して内部を窒素置換し、翌朝、窒素を止めて空気置換したのち集塵機内部の点検のために4名でホッパー部の点検口を開放したところ、ダスト	11001	11 1000 ～ 9999

			が流失して赤熱したダストを浴び2名が死亡した。			
2002	6	9 ～ 10	製鋼転炉の集塵機のバグフィルターが損傷したため乾燥設備を停止して内部を窒素置換し、翌朝、窒素を止めて空気置換したのち集塵機内部の点検のために4名でホッパー部の点検口を開放したところ、ダストが流失して赤熱したダストを浴び2名が死亡した。	11001	11	1000 ～ 9999
2002	6	7 ～ 8	アスファルト再生プラントにおいて生産開始前の点検作業を行っていたところ、二次破碎ホッパーの下部排出口の詰まりを発見したので長さ2mの鋼管を持ってホッパー内に入ったときに、突然、足元の内容物（アスファルトを砕いたもの）が崩れホッパー内で生き埋めになった。	150102	1	1～9
2002	4	9 ～ 10	上水道の立坑内の最下層（地下6階）で電気設備の取り付けを行うために排水ピット内の滞水を排除する必要があったので、地上にいた同僚に排水ポンプのスイッチを入れるように合図し同僚がスイッチを入れたときに、電源盤の誤配線のため上水道管の地下5階の位置に取付けられた仕切弁が開放されて水が噴出し、逃げ遅れて溺れた。	30302	10	1～9
2002	4	16 ～ 17	古紙再生用のサイロ（直径3.5m、高さ約9mの円筒状）へ古紙を溶かした水を供給するための水路（幅3m、高さ1.34mの角型ダクト状パイプ）の上面に直径60cmのマンホールを造るため、水路の中で溶接してサイロの中へ7.7mの高さから墜落した。	30302	1	10～ 29
2001	8	10 ～ 11	外国に出荷するコンテナクレーンの走行検査をするため、車輪を90°方向転換させた油圧ジャッキ(180kg)を移動させていたときに、油圧ジャッキが倒れたため抱きかかえた状態で地面に倒れ腹部を強打した。	11301	5	1～9
2001	12	14 ～ 15	5名が前後に移動する舞台ステージの下部の転落防止装置を点検するため迫りに乗り上昇しているときに、通常舞台ステージの下方1.5mの位置でリミット装置が作動感知し、減速、自動停止する構造であったのに減速リミット装置は作動したものの、停止リミット装置が作動しなかつたため、舞台ステージと迫りとの間に挟まれ2名が死亡した。	170209	7	10～ 29

2001	12	14 ～ 15	5名が前後に移動する舞台ステージの下部の転落防止装置を点検するため迫りに乗り上昇しているときに、通常舞台ステージの下方1.5mの位置でリミット装置が作動感知し、減速、自動停止する構造であったのに減速リミット装置は作動したものの、停止リミット装置が作動しなかつたため、舞台ステージと迫りとの間に挟まれ2名が死亡した。	170209	7	10～ 29
2001	10	13 ～ 14	解体現場の散水作業に使用する給水用ポンプを始動するため工場内貯水プールへと向かった者が戻らず、プールの水面にヘルメットが浮いていたため、プール内を捜索したところ水中に沈んでいるのを発見した。	30209	90	50～ 99
2001	11	16 ～ 17	タイヤショベルによりホッパーに土砂を入れる砂通しという作業において、ダンプ運転手が作業をしているはずの場所に誰もいないので不審に思い、会社に連絡し捜したところホッパーの中で埋まっている作業者を発見した。	20202	7	10～ 29
2001	10	9 ～ 10	製革工場内のバトル(皮の水もどし、脱毛を行う機械)で馬の皮を水もどしする作業に従事していた者が、機械内に落下し、馬皮、水、石鹼が入っている槽に落下し溺れた。	10807	10	1～9
2001	9	13 ～ 14	ヒューム管の製造に使用した型枠を格納するため転がしていたときに、型枠から飛び出していたボルトに右手の手袋が引っかかってヒューム管と一緒に転がるようにまきこまれ、頭部及び胸部を強打した。	10901	7	50～ 99
2001	8	15 ～ 16	マンションの機械駐車場のピット内にあるポンプの設備点検を行っていたときに他の作業者が誤って駐車場の操作盤を操作したためピット上にあった車のパレットが下降し、パレットとピットの床との間で押しつぶされた。	170209	7	300 ～
2001	8	13 ～ 14	洗濯室のドラム回転式大型業務用乾燥機(50kg用、搬入直径90cm、奥行1.2m)で25kg分のタオルの乾燥運転中に、ドラム内に巻込まれ、その後、外に飛ばされた。	11703	7	10～ 29
		7	廃棄物処理場において責任者が見あたらず汚泥貯溜槽(長さ3.6m、幅			

2001	8	～ 8	4. 7m、深さ5. 1m)の点検口の蓋が開いていたので不審に思った同僚が消防署員、警察署員と同槽内を探したところ、同槽内で死亡しているのを発見した。	150103	10	1～9
2001	7	～ 15	倉庫内の電動ラックの修理後、別棟の電動ラックの点検を依頼され、リモコンで電動ラックの調整中にラックとラックとの間に挟まれた。	11301	7	1～9
2001	6	～ 17	定修工事において、塩酸塔還流ボトムラインのバルブ取付工事を行っていて、塩酸塔に隣接する消火設備の配管上に転落した。	30309	2	10～ 29
2001	5	～ 4	小型巻き網船(4. 6t)で網の巻取りを始めたところ、揚網用ローラーから網ロープが外れたので直そうとしローラーに巻込まれた。	70201	7	1～9
2001	5	～ 17	舞台の吊り物である側面反射板(高さ6m)を吊っているワイヤーロープ2本を取替えるため、反射板の骨組みである鉄骨梁に足をかけてワイヤーを取外しているときに約5. 5m下の床に墜落した。	30309	1	1～9
2001	1	～ 8	フロント横の仮眠室で起床し業務の引継ぎのために身支度を整えているところ、2段ベッドの上段に忘れ物をしたため梯子を昇ろうとして足を踏み外し転落した。	140101	1	30～ 49
2001	2	～ 15	倉庫内商品の棚卸しを終え、棚(高さ：1. 4m、幅：1. 1m)の上で粘着紙ラベルロール(質量：65kg)を整理するため、ロールを転がして棚からフォークリフトのパレット上に積み込もうとしたときに棚から墜落した。	40301	1	10～ 29
2000	9	～ 10	バースのエプロンにおいて、海底砂採取船の砂採取装置の鋼製パイプを取り替えるため、パイプを接合しているボルト(24個)をアセチレンガスで溶断してハンマーで叩いて取り除いているときに、溶断せずに残っていたボルト1個が折れ、鋼製パイプ(長さ約8. 7m、重量3. 2t)が落下して直撃された。	11209	4	1～9

2000	8	8 ～ 9	トランスの気密検査を終え検査に使用した容器内のガス(S F 6)を排出するため高圧空気をタンク内に入れながら容器内ガスをホースで屋外へ排出していたところ、容器が破裂し蓋板(重さ約100kg)が飛んで体に当たった。	11301	15	10～ 29
2000	6	9 ～ 10	石油精製所の減圧蒸留プラントにある空気予熱器のダクト内に設置してあるロータ(熱交換を行う部分)の点検作業を行っていて、ロータのブレードとセクタプレートとの間に左上半身を挟まれた。	10804	7	300 ～ 499
2000	1	16 ～ 17	定置網の被害調査で潜水作業を行っているときに、水深約15m付近で潜水していた者の異状に気付いて引き上げたが酸欠状態となっていた。	170209	10	1～9
2000	7	7 ～ 8	廃材の焼却作業で、焼却炉の蓋を閉めるためチェーンブロックの下降ボタンを操作したがストッパーに引っ掛かかって下がらなかったのも木の棒で外そうとしていたときに、同僚がチェーンブロックの上昇ボタンを数回押したところカチッと音がしてストッパーが外れたのと同時に蓋が落下し胸部を焼却炉本体と蓋との間に挟まれた。	10401	7	1～9
2000	7	16 ～ 17	電車車両の床下の汚れや埃等をエアーを吹き付けて落とす作業を屋外で行うための準備中に、工場建屋に設けている観音開きの自動開閉式鉄製扉(高さ6.5m、幅1.1m×4枚、厚さ9.5cm)の左右から頭を挟まれた。	11503	7	30～ 49
2000	6	18 ～ 19	倉庫内において、冷蔵庫及び冷凍庫の上に付着したハトの糞を取り除くため、冷蔵庫の上に登り(高さ2.45m)バールで糞を除去しているときに墜落した。	80209	1	10～ 29
2000	3	11 ～ 12	車のアルミホイールに色付けアルマイト処理の試作品を製作する作業において、封孔処理工程作業中に停電でホイストクレーンが停止したため、6名が電解槽の縁に上り製品を引き上げていたときに、1人がバランスを崩して右腕を純水電解槽(96℃)の中に入れてしまった。	11209	11	100 ～ 299
2000	9	8 ～	自動車洗車機とコンクリート建屋の間にある小物置場へ洗剤を戻そうとしていたときに、自動車洗車機が建屋に入ってきたため自動車洗車	80204	7	30～

		9	機と壁との間に挟まれた。			49
2000	10	15 ～ 16	ガラスカレットシュート(300×600×3057mm、290 k g)の取り付け作業をしていたところ、シュートが落下してその下敷きとなった。	30309	4	10～ 29
2000	3	15 ～ 16	浄水場内の洗浄ループ管の取替工事において、洗浄ループ管の圧力試験を行うため水圧(約5 k g / c m ²)をかけたときに洗浄ループ管に取付けていた回転枝管が回転したため、回転枝管のノズル補修作業を行っていた者が巻き込まれた。	30302	7	1～9
2000	12	10 ～ 11	28階のエレベーターシャフト開口部に仮設の止水用スラブを設けるため、モルタルをクレーンで吊ったホッパーから流し込んでいたところホッパーのバルブが閉まらず中のモルタル(2?)がデッキプレート上に一時に流れ出し、荷重に耐え切れずにデッキプレートが崩壊してデッキプレート上にいた作業員が27, 26階の開口部養生用の足場板を突き破って25階スラブまで約10m墜落した。	30201	1	10～ 29
2000	8	11 ～ 12	エレベーターの非常止め装置の試験のため、落下試験装置の下部搬器作業台で試験準備をしていたところ、落下試験装置の上部吊上げ部と下部搬器との連結部が外れたため、下部搬器が昇降路内を落下し、高さ約100メートル下の基礎ピットに激突した。	11301	1	1000 ～ 9999
2000	6	18 ～ 19	立体駐車場の地下にある揚水ポンプの6ヵ月点検中に、駐車場利用者が起動スイッチを入れたので外に出られなくなることをおそれ、駐車場利用者にスイッチを止めるよう告げるためカーリフトの隙間から頭を出したときにカーリフト間に挟まれた。	150101	7	1～9
2000	10	21 ～ 22	産業廃棄物の燃焼炉の落ち口のスラグをはつっていたときに、落ち口の下部にある冷却函のスラグチョッパー(氷柱上になったスラグを切り落とすもの)により頸椎を切断された。	30309	8	30～ 49
2000	8	18 ～	塩化銅水溶液にアルミニウムを入れ塩化アルミニウム水溶液を製造する反応槽に転落して火傷した。	10801	11	10～ 29

		19				
2000	7	15 ～ 16	鋼線の酸洗場において、表面処理促進剤の入っているポリタンク(20?)のキャップを約1.3メートル下の床面に落としたので飛び降りて拾い、再び作業床に戻るため隣接している水槽の端部に足を掛けた登り始めたときに、バランスを崩し墜落した。	11209	1	10～ 29
2000	1	14 ～ 15	砂利採取場内の沼(水深約8m)の水を用水路に放水するために、自家製のいかだ上に取付けられている水中ポンプが故障したので新しいポンプに取替えるため、同僚と新しいポンプを仮吊りしたいかだに乗り込んで据付け位置へ移動中に、いかだが転覆して2人とも水中に放り出され、1名が水死した。	20202	10	10～ 29
2000	10	15 ～ 16	円筒形ベルトコンベアー(長さ約33.5m、径約1.95m)を移動式クレーン2台で吊り、骨材コルゲートサイロの中央上部に据え付ける作業中に、約12m離れたところにある荷締材レバブロックを取りに幅約50cmの歩廊を移動したときに歩廊から約8.5m下の地面に墜落した。	30302	1	1～9
1999	9	9 ～ 10	コンクリート製品工場のプラント解体工事において、コンクリート型枠搬送機の型枠を吊っていた巻上用チェーン2本を誤ってガス溶断したため、型枠(重量・476kg)が約1mの高さから落下してきて下敷きになった。	30309	4	10～ 29
1999	4	14 ～ 15	空のガソリンタンクの解体で、ガス溶断を始めたところタンク内が爆発し、ガソリンタンクのサイドの円形部分とともに吹き飛ばされた。	11209	14	10～ 29
1999	9	16 ～ 17	高さ約30メートルの橋桁架設現場で使用した橋型クレーンの撤去作業に移設機(ジャッキ)がバランスを崩して橋梁工事現場の谷間に落下したが、その際に、撤去作業に従事していた労働者も一緒に谷間に墜落した。	30105	5	10～ 29
1999	9	16 ～	自動車用エアバッグを廃棄処分するため、4本重ねにした乗用車用タイヤの内部に廃棄するエアバッグを入れ作動させたところ、エアバッグの作動衝撃でタイヤごと吹き飛ばされ、タイヤ上部を押さえていた者	80202	3	30～ 49

		17	が、約1メートル離れたアスファルトの地面に前頭部から激突した。			
1999	8	15 ～ 16	遊園地において客から財布紛失の届出があったので、同僚と2名で遊具 ルーピングスターシップ周辺を探索していて、遊具の下のピット内で 倒れているところを同僚に発見された。	140302	6	100 ～ 299
1999	8	1 ～ 2	抄紙工程で製造したジャンボロールを巻き取り直して一定寸法に切断 する工程のワインダーの運転業務に従事していて、ニップガード(ワイ ンダーの回転中のロール・ドラムへの接触防止装置)に挟まれた。	10601	7	1000 ～ 9999
1999	7	19 ～ 20	コンプレッサーを使用して圧送管内の生コンクリートを排出している ときに、圧送管内の生コンが排出された反動で圧送管が突然回転 し、5Fスラブ上にいた者の胸部を強打した。	30201	6	0
1999	6	19 ～ 20	自動車ヘッドランプ用レンズの防曇塗装用乾燥炉の下部点検扉を開 け、乾燥炉内部に上半身を入れたときに、上昇してきたリフターと上 下扉間の補強フレームに首を挟まれ窒息した。	11402	7	1000 ～ 9999
1999	5	9 ～ 10	会議室から事務所へ移動するため事務用キャビネットの上にカウン ターとして置いていた銀杏の板の下をくぐろうとしたところ、そのう ちの一枚が落下してきて顔面部が下敷きになった。	60201	4	50～ 99
1999	3	16 ～ 17	自動車用ドアの木質内張りボードの材料を製造する木片チップ解繊プ ラントにおいて、集塵機フィルターの日常清掃を行っていたときに、 下部で回転していた送り出し用のスクリーコンベアに巻き込まれ、 下半身が切断された。	11502	7	100 ～ 299
1999	3	19 ～ 20	夕刊の配達の際雨で濡れた衣服をストーブで乾かしていたところ、 誤ってストーブを倒して火災となり、2階で夕刊の配達が終わってテレ ビを見ていた者が一酸化炭素中毒で死亡した。	80205	16	1～9
1999	5	13 ～ 14	金属粉碎工場の集塵ダクトが熱を持っていたので、ダクトの点検孔の ハッチを開放し、着火部を消火するために水を注入しようと点検孔を 離れたときに爆発音がして、その時の爆風で火傷を負った。	11109	14	100 ～ 299
		18				

1999	5	～ 19	高炉付属設備の集塵機のろ布取替作業中に、ホッパー内にドライバーが落ちたのでその状況確認をしようとダンパー内に入り挟まれた。	11702	7	50～ 99
1999	5	～ 17	鉛溶鋳炉のベルホッパーの集塵設備の改良を行うために配管寸法を測っていたときに、ベルホッパーの上蓋の開閉用アームと鉄柱との間に頭部を挟まれた。	30309	7	1～9
1999	5	～ 14	金属粉碎工場の集塵ダクトが熱を持っていたので、ダクトの点検孔のハッチを開放し、着火部を消火するために水を注入しようと点検孔を離れたときに爆発音がして、その時の爆風で火傷を負った。	11109	14	50～ 99
1999	3	～ 17	窒素による配管リークテスト実施中、伸縮管付フランジから漏れを発見したのでボルトを締め付けているときに、伸縮管が破裂した。	30302	15	10～ 29
1999	1	～ 15	防波堤に接触して損傷したフェリーを水中で点検するため潜水作業を行っていたところ、潜水士のヘルメットが外れて溺死した。	30199	10	10～ 29
1999	1	～ 14	エチレンを製造するプラントにおいて、急冷熱交換とフラッシュドラムを結ぶ蒸気配管の漏洩箇所を補修するために保温解体作業の準備を行っていたところ、蒸気配管の漏洩箇所付近が突然破裂し、付近にいた労働者が打撲と火傷を受けた。	30309	15	10～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_02.html